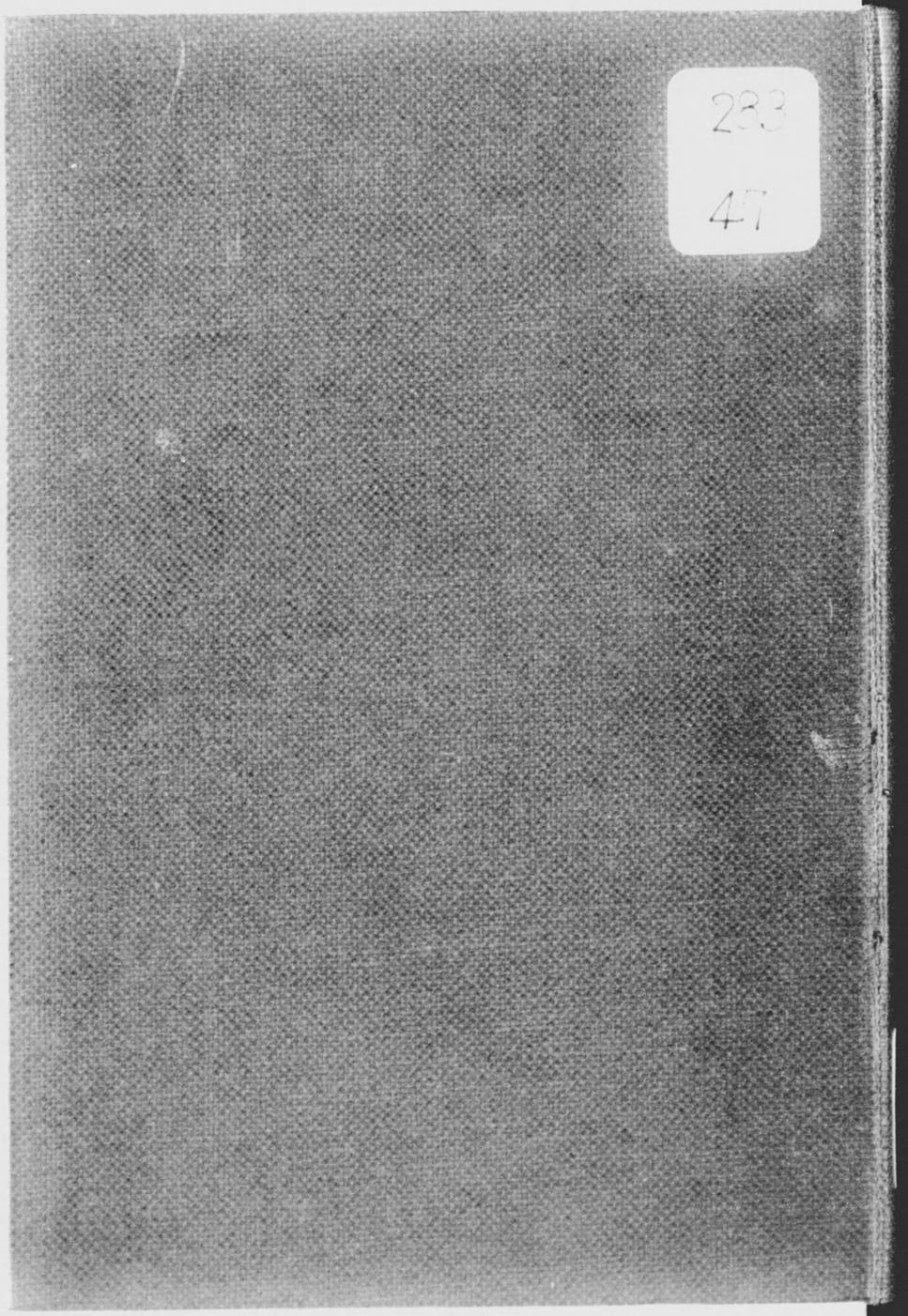
283
47

파 5K 23

廣島高等學校一覽

自昭和五年四月
至昭和六年三月

283-47

廣島高等學校一覽　第七年度

（自昭和五年四月至昭和六年三月）

發行所寄贈本

目次

第一沿革略　一頁
第二學年曆　八頁
第三學則　一〇頁
第一章　總則　一〇頁
第二章　學科課程、教授時數　一〇頁
第三章　學年、學期、休業　一四頁
第四章　入學、在學、轉科轉類　一六頁
第五章　進級、卒業　一九頁
第六章　休學、退學、轉學　二〇頁
第七章　懲戒　二二頁

第八章 授業料 二二頁
第九章 制服 二四頁
第十章 寄宿寮 二四頁
第十一章 圖書、器械 二六頁
第四 細則 二八頁
一 學則施行細則 二八頁
第一章 生徒心得 二八頁
第二章 入學、在學、轉科轉類 三〇頁
第三章 隨意科目、選擇科目 三三頁
第四章 遲刻、缺課、缺席 三三頁
第五章 成績考查 三四頁
第六章 授業料、寄宿料 三八頁
第七章 通學 三九頁

第八章 服裝 四〇頁
第九章 學級總代 四五頁
二 校務分掌規程 四六頁
三 文書處理規程 五四頁
四 文書保存規程 五七頁
五 宿直勤務規程 六〇頁
六 物品會計規程細則 六四頁
第一章 總則 六四頁
第二章 保管及出納 六四頁
第三章 檢閱 六八頁
七 圖書閱覽室規則 七一頁
第五 職員 七三頁
一 職員 七三頁

二　學級主任　七九頁
三　事務分掌　八一頁
第六　生　徒
一　生徒氏名　八四頁
二　在學者本籍府縣別表　八四頁
三　入學者學歷別表　八四頁
四　生徒年齡別表　一一一頁
五　卒業生大學進入表　一一四頁
第七　卒業生氏名　一一五頁
第八　關係法規　一一九頁
一　高等學校令　一四九頁
二　高等學校規程（抄）　一四九頁
三　文部省直轄諸學校官制（抄）　一五四頁
四　文部省直轄諸學校職員定員令（抄）　一四九頁
五　陸軍現役將校學校配屬令　一七三頁
六　高等學校高等科入學資格試驗規程　一七六頁
七　專門學校入學者檢定規程　一七七頁
八　文部省直轄學校外國人特別入學規程　一八〇頁
九　高等學校教員規程　一八二頁
附　錄　一九一頁
一　廣島高等學校々友會々則　一九三頁
二　廣島高等學校同窓會規約　二〇五頁
　　二一一頁

廣島高等學校一覽

第一　沿革略

大正十二年
十二月十日　勅令第五百一號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中ニ改正ヲ加ヘ本校ヲ設置セラレ同五百二號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ校長一人教授九人書記四人ト定メラル

同月十三日　第三高等學校教授十時彌本校々長ニ任セラル

同月十四日　事務所ヲ文部省内ニ置キ事務ヲ開始ス

大正十三年
一月十六日　事務所ヲ廣島市皆實町本校内ニ移ス

二月二十五日　本校本館ノ新築成ル

三月三十一日　本校學則及學則施行細則ヲ制定ス

四月十二日　入學式ヲ擧行シ生徒二百人ヲ入學セシム
同月十四日　授業ヲ開始ス
同月二十八日　勅令第九十八號ヲ以テ文部省直轄諸學校定員令ニ改正ヲ加ヘ本校職員定員ヲ校長一人教授十六人書記四人ト定メラル
五月三十一日　皇太子殿下御成婚奉祝式ヲ擧行ス
十二月四日　寄宿寮ノ新築成ル
大正十四年
一月七日　寄宿寮ニ生徒七十七人ヲ收容ス
同月十六日　博物教室ノ新築成ル
三月二十三日　學則及學則施行細則ノ一部ヲ改正ス
同月二十八日　生徒百八十四人ノ入學ヲ許可ス
四月十一日　入學式ヲ擧行ス
同月二十五日　勅令第百四十二號ヲ以テ文部省直轄諸學校定員令ニ改正ヲ加ヘ本校

職員定員ヲ校長一人教授二十四人助教授一人書記五人ト定メラル
五月十日　天皇　皇后兩陛下御結婚滿二十五年奉祝式ヲ擧行ス
八月十一日　物理教室ノ新築成ル
十二月八日　圖書室ノ新築成ル
同月十二日　照宮成子內親王殿下御命名奉祝式ヲ擧行ス
大正十五年
四月八日　生徒百七十八人ノ入學ヲ許可ス
是ニ於テ生徒總數五百五十五人トナリ全學級完成ス
同月十七日　入學式ヲ擧行ス
五月十三日　化學教室ノ新築成ル
同月二十六日　皇太子殿下本校ニ行啓アラセラレ文部省專門學務局長粟屋謙、學校長十時彌、教授大谷正信、堀江久勝ニ單獨拜謁ヲ賜ヒ學校長言上書並學校一覽ヲ奉呈ス更ニ教授下田卯市以下二十八名ニ對シ列立拜謁

ヲ賜ヒ次イテ運動場ニ成ラセラレ文、理科生徒對抗ノ蹴球競技ヲ台覽アラセラレ職員生徒一同ノ萬歳三唱裡ニ御機嫌麗ハシク還啓遊サルル

六月十日　故大勳位李王殿下國葬儀ニ付休業ス

七月五日　勅令第二百四十九號ヲ以テ文部省直轄諸學校定員令ニ改正ヲ加ヘ本校職員定員ヲ校長一人教授三十人助教授四人書記六人ト定メラル

十月二十二日　長慶天皇御在位御親告ノ儀行ハセラルヽニ付休業ス

十二月廿五日　大正天皇崩御　皇太子殿下踐祚昭和ト改元セラル

午前九時奉悼遙拜式ヲ擧行ス

昭和二年

一月七日　柔劍道場ノ新築成ル

同月十日　午前九時朝見式ノ際群臣ニ賜リタル勅語ノ奉讀式ヲ擧行ス

同月十一日　雨天体操場ノ新築成ル

同月三十日　講堂ノ新築成ル

二月七日　大喪儀ニ付奉悼ノ爲休業ス

午後十一時運動場ニ於テ遙拜式ヲ擧行ス

同月八日　大喪儀ニ付奉悼ノ爲休業ス

三月十日　第一回卒業生百五十二人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス

同月十五日　勅令第二十五號ヲ以テ休日ニ關スル規程改正ニ伴ヒ本校學則第三章第三條ヲ改正ス

四月八日　生徒百九十四人ニ對シ入學ヲ許可ス

同月十六日　入學式ヲ擧行ス

十二月廿七日　勅令第三百六十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校定員令ニ改正ヲ加ヘ本校職員定員ヲ校長一人教授三十人助教授四人書記六人助手一人ト定メラル

昭和三年

一月十二日　本校開校式ヲ擧行ス
三月　十　日　第二回卒業生百七十人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス
同月廿五日　生徒百八十九人ニ對シ入學ヲ許可ス
同月廿九日　學則第十章第三條、第四條、第六條及附則ヲ改正ス
四月十一日　入學式ヲ擧行ス
七月十四日　學則第四章第二條、第三條、第四條、第六條、第十四條及第六章第六條ノ八ヲ改正ス
十月　十　日　天皇　皇后兩陛下御眞影ヲ拜戴ス
本校創立記念式ヲ擧行ス
十月廿九日　勅令第二百五十七號ヲ以テ本校職員定員ニ生徒主事及生徒主事補各一人ヲ加ヘラル
十一月十日　即位ノ大禮ヲ行ハセラレ校長十時彌賢所大前ノ儀、紫宸殿ノ儀、賢所御神樂ノ儀及大嘗夜宴ノ儀ニ召サル

即位ノ禮拜賀式ヲ擧行ス
同月十四日　大嘗祭遙拜式ヲ擧行ス
同月十五日　大禮祝賀會ヲ擧行ス
十二月十日　敎育ニ關スル御沙汰書ヲ下シ賜フ

昭和四年

三月　十　日　第三回卒業生百八十九人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス
同月廿七日　生徒百九十一人ニ對シ入學ヲ許可ス
同月三十日　學則第八章第一條、第二條、第八條及附則ヲ改正ス
四月十一日　入學式ヲ擧行ス
十月　十　日　本校創立記念式ヲ擧行ス

昭和五年

三月　十　日　第四回卒業生百六十八人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス
同月廿六日　生徒百九十一人ニ對シ入學ヲ許可ス

第二學年

曆

昭和五年

四月十一日　入學式
同月十二日　始業式
同月十三日　授業開始
同月二十九日　天長節拜賀式
七月十四日　第一學期授業終了
九月六日　第二學期授業開始
同月二十四日　秋季皇靈祭
十月十七日　神嘗祭
十一月三日　明治節
十二月廿四日　第二學期授業終了

本校創立紀念日

昭和六年

一月一日　新年拜賀式
同月八日　第三學期授業開始
二月十一日　紀元節拜賀式
三月十日　第三學期授業終了

第三學則

第一章　總則

第一條　本校ハ大正七年勅令第三百八十九號ニ基キ高等學校高等科ヲ置ク

第二條　本校ノ修業年限ハ三年トス

第二章　學科課程、教授時數

第一條　本校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第二條　文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、鑛物及地質、心理、法制及經濟、圖書、體操トス

外國語ハ英語又ハ獨語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第三條　文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理			
法制及經濟			
數學	三	二	二
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	二九(三三)	二九(三三)	二八(三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週敎授時數ハ左表ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語		(三)	(三)
計	一一	一〇 (三)	一〇 (三)
		三一 (三四)	三〇 (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ敎授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲアルヘシ

第四條　理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週敎授時數ハ左表ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	六	六	八
第二外國語			(四)
數學	(四)	(四)	四
物理			三 講義 実驗二
化學	四 (二)	四 (二)	三 講義二 実驗
植物及動物			
鑛物及地質		二	
心理			二 講義 実驗 二四
法制及經濟			
圖畫	二	二 (二)	
體操	三	三	三
計	二八 (三二)	二八 (三二)	

第三學年ノ數學〔二〕及圖畫〔二〕ト第三學年ノ植物及動物〔講義二、實驗二〕トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望

ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三〇 (三三)	三一 (三四)	三一 (三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトアルヘシ

第三章　學年、學期、休業

第一條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條　學年ヲ分チテ三學期トス左ノ如シ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三條　休業日ハ左ノ如シ

一　日曜日

一　本校創立記念日

一　天長節　四月二十九日

一　夏季休業　七月十五日ヨリ九月五日ニ至ル

一　秋季皇靈祭　秋分日

一　神嘗祭　十月十七日

一　明治節　十一月三日

一　新嘗祭　十一月二十三日

一　冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

一　紀元節　二月十一日

一　春季休業　三月十一日ヨリ四月十日ニ至ル

第四章　入學、在學、轉科轉類

第一條　入學ノ期ハ學年ノ初トス

第二條　本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ身體檢査ヲ受ケ之ニ合格シタル者ニ限ル

一　中學校第四學年ヲ修了シタル者

二　他ノ高等學校尋常科ヲ卒業シタル者

三　高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

四　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

五　文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

六　文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第三條　前條ノ入學志願者ノ數各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト選拔試驗ノ成績トヲ併セ考査シテ入學者ヲ定ム

前項ノ外必要ト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考査ヲ行フコトアルヘシ

第四條　前條ノ選拔試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ於テ之ヲ行フ該試驗ニ外國語ヲ課スル場合ハ英語又ハ獨語トシ志願者ハ隨意ニ其ノ一ヲ選フコトヲ得ルモノトス

第五條　入學志願者ハ入學後修業セントスル科及類ヲ指定シテ願出ツヘシ其ノ指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

文科甲類　英語ヲ第一外國語トスル者

文科乙類　獨語ヲ第一外國語トスル者

理科甲類　英語ヲ第一外國語トスル者

理科乙類　獨語ヲ第一外國語トスル者

第六條　入學志願者ハ所定ノ手續ニ依リ名票、入學考査料、寫眞ヲ具ヘ本校ニ願出ツヘシ

第七條　入學考査料ハ金五圓トス

既納ノ入學考査料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第八條　願ニ依リ退學シタル者退學シタル時ヨリ一箇年以内ニ於テ再入學ヲ願出ツルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限リ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付シ且戸籍謄本及履歴書ヲ差出スヘシ

前項ノ手續ヲ了セサル者ニ對シテハ其ノ入學ノ許可ヲ取消ス

既納ノ入學料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第十條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ父兄若ハ之ニ代ルヘキ者ヲ保證人トシ本校所定ノ保證書ヲ差出スヘシ

保證書ノ樣式ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十一條　保證人ノ住所、印鑑等ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

第十二條　保證人死去若ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ第十條ノ手續ヲナスヘシ

第十三條　入學ノ後ニ於テ轉科轉類ヲ出願シタルトキハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ニ依リ出願スル者ハ其ノ事由ヲ明記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

轉科轉類ニ關スル規程ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十四條　他學校ニ入學出願ヲ爲サントスル者ハ其ノ事由ヲ明記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第五章　進級、卒業

第一條　各學年ノ末ニ於テ生徒ノ學業成績、行狀、勤惰等ヲ考査シ合格ノ者ハ進級若ハ卒業セシメ不合格ノ者ハ原學年ニ留ム

第二條　學業成績ハ日常ノ課業、臨時試驗並學期試驗ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

臨時試驗ハ課業ノ進度ニ應シ敎官ノ見込ニ依リ之ヲ行フ

學期試驗ハ各學期ノ末ニ於テ之ヲ行フ

第三條　學業成績ノ考査ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第四條　原學年ニ留メタル者ニハ次學年ノ初ヨリ當該學年ノ全學科ヲ再修セシム

第五條　本校所定ノ課程ヲ履修シテ卒業シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證

族籍
何

年月日生　某

本校所定ノ文(理)科ノ學科ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

廣島高等學校長位勳學位爵氏名印

番號

第六章　休學、退學、轉學

第一條　疾病又ハ已ムヲ得サル事由ニ因リ三箇月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者ニ對シテハ休學ヲ許可スルコトアルヘシ

休學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ノ爲ニ休學セントスルトキハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二條　陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若ハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學トス

第三條　休學ハ當該學年ニ限ル前條ニ依ル者ハ此ノ限リニ在ラス

第四條　本章第一條ニ依リ休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ課業ニ就クヘシ

本章第二條ニ依リ休學シタル者ハ服役滿期又ハ召集解除後一箇月以內ニ於テ原學年ノ課業ニ就クヘシ

第五條　疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ニ因リ退學セントスルトキハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　二回引續キ同一學年ニ留マル者但シ本章第二條ニ依リ休學セル期間ヲ算入セス

四　引續キ一箇年以上缺席シタル者

五　正當ノ理由ナク又ハ屆出ヲ爲サスシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

六　出席常ナラサル者

七　一定ノ期間内ニ授業料及寄宿料ヲ納付セサル者

八　第四章第十四條ノ手續ヲ爲サスシテ他學校ニ入學出願シタル者

前項ノ外除名ニ關シテハ臨機ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第七條　他ノ學校ヘ又ハ他ノ學校ヨリノ轉學ハ之ヲ許サス

第七章　懲戒

第一條　校規風紀ヲ紊リ其ノ他生徒タルノ本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

第二條　懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭、停學及放校トス

第八章　授業料

第一條　授業料ハ一學年金八拾圓トス

第二條　授業料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徵收ス

第一學期　四月　金貳拾五圓

第二學期　九月　金參拾圓

第三學期　一月　金貳拾五圓

授業料徵收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第三條　既納ノ授業料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第四條　第四章第八條ニ依リ入學シタル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヨリ之ヲ徵收ス

第五條　學期開始後退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徵收ス

第六條　授業料ハ缺席、停學、休學等ノ爲ニ之ヲ免除スルコトナシ但シ第六章第二條ニ依リ休學シタル者ニ對シテハ授業料徵收期ノ前ニ在リテハ次月分ヨリ其ノ後ニ在リテハ次學期分ヨリ之ヲ徵收セス

第七條　第六章第二條ニ依リ休學シタル者學期ノ中途ニ於テ課業ニ就キタルトキハ當該學期分ノ授業料ハ其ノ月分ヨリ之ヲ徵收ス

第八條　本章第六條但書及第七條ノ場合ニ於ケル授業料ノ月割額ハ金八圓トス但シ第一學期分授業料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第九條　第四條乃至第七條ノ授業料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第九章　制服

第一條　生徒ハ本校所定ノ服裝ヲナスヘシ但シ新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學ノ日ヨリ一定ノ期間制帽及靴ノ外ハ之ヲ猶豫ス

第十章　寄宿寮

第一條　寄宿寮ニ入ラントスル者ハ本校所定ノ書式ニ依リ願書ヲ差出シテ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　寮生ハ規定ノ期日内ニ寄宿料ヲ本校ニ納付シ且食費ヲ支拂フヘシ

第三條　寄宿料ハ一學年金貳拾圓トス

第四條　寄宿料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一學期分　金六　圓

第二學期分　金八　圓

第三學期分　金六　圓

寄宿料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第五條　既納ノ寄宿料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第六條　寄宿料徴收期日後ニ入寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヨリ寄宿料徴收期日前ニ退寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヲ徴收ス

前項ノ場合ニ於ケル寄宿料月割額ハ金貳圓トス但シ寄宿料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第一項ノ寄宿料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第七條　寮生ニシテ退寮セントスル者ハ其ノ事理ヲ明記シテ願出テ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　寮生ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ種類又ハ症狀ニ依リ外泊若ハ退寮セシムルコトアルヘシ

第九條　寮生ニシテ寮規ヲ紊ル行爲アリタルトキハ之ニ退寮ヲ命ス

第十一章　圖書、器械

第一條　本校所屬ノ圖書類ハ特別ノ規定ニ依ルモノヽ外總テ之ヲ文庫内ニ藏置ス

第二條　圖書ヲ閲覽スルコトヲ得ル者ハ本校職員、生徒及特ニ學校長ノ許可ヲ得タル者ニ限ル

第三條　本校職員ハ所定ノ手續ヲ了シ職務ニ必要ナル圖書ヲ借受ケ之ヲ文庫外ニ携出スルコトヲ得但シ貴重圖書及閲覽室備付ノ圖書ハ之ヲ携出スルコトヲ得ス

第四條　教官室、特別教室又ハ事務室等ニ備付ヲ要スル圖書ハ當該學科主任、各課々長又ハ會計主任之ヲ借受ケ其ノ保管ノ責ニ任スル者トス

第五條　本校所屬ノ學術用標本、器具、機械ハ各所屬教室ニ之ヲ藏置ス

第六條　生徒ハ當該學科擔任教官ノ許可ヲ得テ實習ノ爲圖書、標本、器具、機械ヲ使用スルコトヲ得

第七條　圖書、標本、器具、機械ヲ紛失、毀損又ハ汚染シタルトキハ其ノ損害ノ程度

ニ依リ之ヲ辨償セシメ又ハ其ノ修理ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

附　則

本則ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ自大正十四年度至昭和三年度ニ入學シタル生徒ニ就キテハ其ノ卒業ニ至ル迄第八章第一條ノ授業料額ヲ金六拾五圓第二條ノ授業料分納額ヲ第一學期分金貳拾圓、第二學期分金貳拾五圓、第三學期分金貳拾圓及第八條ノ授業料月割額ヲ金六圓五拾錢トス

第四　細則

一　學則施行細則

第一章　生徒心得

第一條　校ノ内外ヲ問ハス其ノ體面ヲ汚スカ如キ言行アルヘカラス

第二條　始業ノ號鐘ニ依リ直ニ定席ニ着キ教官ノ入室ヲ待ツヘシ教官入室スルトキハ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ
退室ノ際モ亦同シ

第三條　教官定刻ニ至ルモ教室ニ臨場セサルトキハ教務課ニ問合セ其ノ指揮ヲ受クヘシ隨意ニ退散スルコトヲ得ス

第四條　教室ニ在リテハ授業中ハ勿論休憩中ト雖モ靜肅ヲ旨トシ喧噪ノ行爲アルヘカラス

第五條　教室内ニハ授業上ノ必要品及許サレタルモノ、外ハ持込ムヘカラス

第六條　教官ノ許可ナクシテ恣ニ退出スルコトヲ得ス

第七條　校舍内ニ於テハ指定場所ノ外喫煙スヘカラス

第八條　登校ニ際シテハ必ス靴ヲ穿ツヘシ但シ特ニ生徒主事ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　建物又ハ器物ヲ毀損シ若ハ汚損シタル者ニ對シテハ之ヲ辨償セシメ情狀ニ依リテハ處分スルコトアルヘシ

第十條　本校ノ示達ハ所定ノ場所ニ掲示シタル以上ハ一般ニ了知セラレタルモノト見做スニヨリ常ニ掲示場ニ注意スヘシ

第十一條　掲示ヲ爲サントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受ケ必ス所定ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十二條　集會ヲ爲サントスルトキハ其ノ代表者ヲ定メ集會ノ目的、種類、時日、場所（會費ヲ要スルトキハ其ノ金額）等ヲ具シ集會ノ前日マテニ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　集會ノ爲ニ敎室ヲ借用セントスルトキハ敎務課ノ許可ヲ受クヘシ其ノ他ノ場所ヲ使用セントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條　校外ニ於ケル集會ハ風紀ヲ害シ多額ノ費用ヲ要スルノ虞ナキ場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十五條　集會ハ休業日又ハ放課後ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十六條　一定ノ會ヲ組織セントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ解散シタルトキハ生徒主事ニ屆出ツヘシ

第十七條　別ニ規定ヲ設ケタルモノヽ、外願屆書等ハ總テ學級主任ノ承認ヲ經ヘシ

第十八條　本校生徒ハ總テ本校々友會員タルヘキ義務アルモノトス

第二章　入學、在學、轉科轉類

第一條　學則第四章第十一條ニ依リ入學ノ許可ヲ得タル者ノ差出スヘキ保證書ノ樣式ハ左ノ通之ヲ定ム

參錢收入印紙

保證書

本籍及族稱
家庭所在地
家族關係
氏名　年月日生

右之者今般入學ノ御許可ヲ得候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受クヘキコト保證候也
追テ向後私ノ宿所移轉或ハ印章相改メ候節ハ速ニ屆出ツヘク候也

年　月　日

本籍地
現住所
職業
生徒トノ續柄
保證人氏名　印
年月日生

廣島高等學校長氏名殿

第二條　戸籍ニ異動ヲ生シタルトキハ戸籍謄本ヲ添ヘ遲滯ナク屆出ツヘシ

第三條　陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若ハ召集ニ應シタルトキハ其ノ役名服役又ハ召集ノ期限及部隊又ハ艦艇名ヲ具シ遲滯ナク屆出ツヘシ

第四條　學則第四章第十三條ニ依ル轉科轉類ハ同學年若ハ其ノ以下ノ學年ニ限ル

第五條　第一學年ニ轉科轉類セントスル者ニハ入學選拔試驗ヲ受ケシム

第六條　第二學年以上ニ轉科轉類セントスル者ニハ缺員アル場合ニ限リ左ノ方法ニ依リ特ニ許可スルコトアルヘシ

一　從來ノ操行及學業成績ヲ參考シタル上檢定試驗ヲ課ス

二　檢定試驗ハ轉入セントスル科類ニ於ケル前學年以下ノ全科目ニ付之ヲ課スルモノトス

但シ轉類セントスル者ノ既修シタル學科目ニシテ其ノ內容、程度及每週敎授時數ニ於ヲ同等以上ト認ムヘキ場合ハ當該學科目ニ限リ試驗ヲ課セサルコトヲ得

第七條　轉科轉類ノ時期ハ學年ノ始トス

第三章　隨意科目、選擇科目

第一條　入學ヲ許可セラレタル者ニシテ隨意科目ヲ履修セントスル者ハ指定ノ期日マテニ其ノ旨屆出ツヘシ

第二條　隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ履修スルコトヲ得ス

第三條　隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ其ノ履修ヲ止ムルコトヲ得ス

次學年ヨリ隨意科目ノ履修ヲ止メントスル者ハ其ノ學年ノ終ニ於テ屆出ツヘシ

第四條　入學者選拔試驗ノ外國語ニ獨語ヲ選ヒタル入學者ニ對シテハ本校ノ都合ニ依リ第二外國語ヲ履修セシメサルコトアルヘシ

第五條　學則第二章第四條第二項ニ依ル學科目ノ選擇ハ第二學年ノ終ニ於テ之ヲ屆出ツヘシ

第六條　前條學科目ノ選擇ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四章　遲刻、缺課、缺席

第一條　疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ課業ニ遲刻又ハ缺席セル者ハ當日ヨリ三日

以內（休日ヲ除ク）ニ生徒課備付ノ缺席屆簿ニ日時及其ノ事由ヲ記入捺印シ生徒主事ノ承認ヲ受クヘシ

三日以上引續キ缺席シテ前項ノ手續ヲ爲ス能ハサルトキハ最初ヨリ三日以內ニ書面ヲ以テ生徒主事ニ屆出ツヘク又疾病ニ因リ缺席七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二條　左ノ事由ニ因リテ缺課缺席ヲ屆出テタル場合ハ之ヲ缺課缺席ノ數ニ算入セス

一　父母ノ喪ニ當リタルトキハ七日以內、祖父母兄弟姉妹ノ喪ニ當リタルトキハ五日以內、其ノ他ノ服忌ヲ受クル場合ハ三日以內

二　徵兵檢查ヲ受クル場合ハ其ノ當日ト本校ノ適當ナリト認ムル往復日數ヲ加ヘタル日數

第五章　成績考查

第一條　各學科目ノ成績ニ對シ評點ヲ附ス

評點ヲ分チテ學期評點及學年評點ノ二種トス

第二條　學期評點ハ學期每ニ各學科目ニ就キ當該學期間ノ日常ノ課業、臨時試驗、學期試驗ノ成績及平素ノ勤惰等ヲ考查シテ之ヲ定ム

第三條　學年評點ハ各學期評點ノ和ヲ三ヲ以テ除シタルモノトス

第四條　各學年ノ評點科目數ハ左ノ通之ヲ定メ其ノ一科目ノ滿點ヲ百點トス

學年	第一學年				第二學年				第三學年			
學科目 ＼ 科類	文甲	文乙	理甲	理乙	文甲	文乙	理甲	理乙	文甲	文乙	理甲	理乙
修身					一	一	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	二	二	二	二	二	二	一	一	二	二	一	一
第一外國語	三	三	三	三	三	三	二	三	三	三	二	三
第二外國語	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
歷史	一	一			二	二						
地理	一	一										
哲學概說									一	一	一	
心理及論理					一	一			一	一	一	
法制及經濟	一	一			一	一						

數學	自然科學	物理	化學	植物及動物	鑛物及地質	心理	圖畫	体操	合計
一	一							一	一〇(一二)
一	一							一	一〇(一二)
二				一	一		一	一	一二(一三)
二				一	一		一	一	一二(一三)
	一							一	一二(一三)
	一							一	一二(一三)
二		一	一	一		一	一	一	一二(一三)
二		一	一	一		一	一	一	一三(一四)
								一	一一(一二)
								一	一一(一二)
二(一)		二	二	二			(一)	一	一二(一三)
二(一)		二	二	二			(一)	一	一三(一四)

第二外國語ヲ履修スル者ニ對シテハ他學科ト同一ニ取扱フモノトス

第五條　試驗ニ缺席シタル者ニハ零點ヲ附ス但シ其ノ缺席ノ事由正當ナル者ニ對シテハ左ノ規定ニ依ル

一　學期試驗ニ在リテハ平素ノ學業成績、行狀、勤惰等ヲ考查シ他ノ學期ノ評點ヲ

參酌シテ認定點ヲ附與ス

二　臨時試驗ニ在リテハ其ノ學期試驗ノ成績ヲ參酌シテ認定點ヲ附與ス

三　同一學期ノ學期試驗及臨時試驗ニ缺席シタル者ニハ他學期ノ學期評點ヲ參酌シテ認定點ヲ附與スルコトアルヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ認定點ヲ附與セス

一　停學處分ヲ受ケタル爲ニ試驗ニ缺席シタル者

二　試驗ニ缺席シタル事由ヲ期日內ニ屆出テサル者

三　當該學期ニ於テ某科目ノ教授總時數ノ五分ノ三以上缺席シタル者

第七條　前條第三號ニ該當スル者ニシテ他ノ二學期ノ成績佳良ナル者ニ對シテハ詮議ノ上認定點ヲ附與スルコトアルヘシ

第八條　學年成績ノ平均評點六十以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ行狀、勤惰ヲ參酌シテ合格トシ進級又ハ卒業セシム

一　科目評點六十未滿ノモノナキ者

二　科目評點六十未滿ノモノ一科目アルモ其ノ評點四十以上ナル者

三　科目評點六十未滿ノモノ二科目アルモ其ノ評點一ハ五十以上他ハ四十以上ナル者

四　科目評點六十未滿ノモノ科目總數ノ三分ノ一以內アルモ何レモ其ノ評點五十以上ナル者

第九條　當該學年ニ於ケル缺課缺席ノ數夥多ナル者ハ前條ニ拘ラス進級又ハ卒業セシメサルコトアルヘシ

第六章　授業料、寄宿料

第一條　授業料及寄宿料徵收期日ハ左ノ通之ヲ定ム

第一學期分　四月十六日ヨリ同月二十日迄

第二學期分　九月十六日ヨリ同月二十日迄

第三學期分　一月十六日ヨリ同月二十日迄

前項ノ期日中休業ニ當ル日アルトキハ順延ス

第二條　授業料及寄宿料ハ前條ノ徵收期日內ニ於テ所定ノ納付書用紙ニ所要事項ヲ記入シタルモノヲ添ヘ現金ヲ以テ會計課ニ納付スヘシ但シ病氣其ノ他已ムコトヲ得サル事故ニ因リ歸鄉シ又ハ他ノ地方ニ在ル者ハ郵便爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得

第三條　本章第一條ノ徵收期ヲ過キテ入學又ハ入寮シタル者ハ入學又ハ入寮ノ日ヨリ七日以內ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付スヘシ

第四條　本章第一條及第三條ノ期限內ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ出席ヲ停止ス

第五條　本章第一條及第三條ノ期限滿了ノ翌日ヨリ二週間ヲ經過スルモ尙授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ハ學則第六章第六條第七號ニ依リ之ヲ除名ス

第七章　通學生

第一條　通學生徒ハ異動ノ有無ニ拘ハラス每學期ノ始ニ於テ所定ノ用紙ヲ以テ宿所ヲ生徒課ニ屆出ツヘシ

第二條　通學生徒宿所ヲ變更シタルトキハ三日以內ニ其ノ宿所ヲ屆出ツヘシ

第三條　通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認メタルトキハ宿所ノ變更ヲ命スルコトアル
ヘシ

第八章　服　裝

第一條　本校生徒ノ服裝ハ左ノ通之ヲ定ム

一　正　帽

制　式　丸形

品　質　絨

色　黒

徽　章　眞鍮製金色ニシテ三個ノ竹葉ニ高ノ字ヲ附シタルモノ

横　章　白線（幅約二分五厘）二條

二　略　帽

制　式　普通形（緣約三寸高サ約三寸）

品　質　麥藁

鉢　卷　焦茶地（幅約一寸七分）ニ白線（幅約二分）二條（間隔約二分）

徽　章　正帽ニ同シ

三　服

（甲）冬　服

（一）上　衣

制　式　背廣形立襟

品　質　絨又ハ小倉

色　濃紺又ハ黒

襟・章　文科ハL、理科ハS（眞鍮製金色）ヲ左襟ニ附ス

釦　圓形ニシテ徽章ヲ表シタルモノ（眞鍮製金色）

(二)ズボン

製式　普通

品質　上衣ニ同シ

色　上衣ニ同シ

(乙)夏服

(一)上衣

制式　冬服ノ上衣ニ同シ

品質　小倉

色　藍鼠霜降

釦　冬服ノ上衣ニ同シ

襟章　冬服ノ上衣ニ同シ

(二)ズボン

制式　冬服ノズボンニ同シ

品質　上衣ニ同シ

色　上衣ニ同シ

四　靴

制式　短靴（編上及深護謨ヲ含ム）

品質　革、ズック又ハ護謨

色　黒

五　脚胖

制式　巻脚胖

品質　絨又ハ木綿

色　茶褐

脚胖ハ特ニ指定シタル場合ニノミ之ヲ着用スルモノトス

第二條　左ノ場合ニ於テハ前條制定ノ服裝ヲ爲スヘシ

一　儀式擧行ノ場合
二　授業ヲ受クル場合
三　本校ヨリ特ニ指定シタル場合

第三條　已ムヲ得サル事故ニ因リ制服ヲ着用スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ詳記シテ生徒課ニ届出テ略裝許可ヲ受クルニ非サレハ授業ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　外出ノ際ハ成ルヘク制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スルトキハ必ス制帽ヲ被リ袴ヲ穿ツヘシ

第五條　冬服着用期間ハ十月一日ヨリ翌年四月三十日マテ夏服着用期間ハ五月一日ヨリ九月三十日マテトス但シ時宜ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第六條　新ニ入學セル生徒ニ對シテハ其ノ年四月三十日マテハ和服着用ヲ許可ス

第七條　略帽ハ五月一日ヨリ九月三十日マテ之ヲ着用スルコトヲ得但シ儀式其ノ他特ニ指定シタル場合ニハ必ス正帽ヲ着用スヘシ

第八條　外套ヲ着クル者ハ乘馬形（絨製濃紺色又ハ黒色）ノモノヲ用フヘシ但シ將校

マント（絨製濃紺色又ハ黒色）ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九章　學級總代

第一條　各學級ニ學級總代二名ヲ置ク學級總代ハ其ノ學級ノ生徒ヲシテ互選セシメ學校長之ヲ命ス但シ第一學年ニ在リテハ此ノ規定ニ依ラサルコトアルヘシ

第二條　學級總代ハ當該學級主任ノ指揮ヲ承ケ其ノ學級ニ關スル一切ノ世話ヲ爲スモノトス

第三條　學級總代ノ任期ハ一學年間トス

第四條　學級總代ハ文科理科毎ニ其ノ科ノ最上級ノ學級總代中ヨリ代表者一名ヲ選擧シ之ヲ其ノ科總代トス

二　校務分掌規程

第一條　校務ヲ分チテ教務課、生徒課、庶務課、圖書課及會計課ノ五トス

第二條　教務課、生徒課、庶務課、圖書課ニ課長ヲ置キ會計課ニ主任ヲ置ク

第三條　課長ハ教授中ヨリ主任ハ會計課員中ヨリ學校長之ヲ命ス

教務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ掌理ス

生徒課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ニ關スルコトヲ掌理ス

庶務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

圖書課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌理ス

會計課主任ハ學校長ノ命ヲ承ケ會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　一學科又ハ數學科ヲ合セタルモノニ學科主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

學科主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ當該學科ノ授業ニ關スル事ヲ掌ル其ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

一　當該學科教授ノ統一改善ヲ圖ルコト

二　當該學科ノ教科用書ニ關シ提案スルコト

三　當該學科ノ授業分擔ニ關シ提案スルコト

四　當該學科ノ特別教室ニ關スルコト

五　其ノ他當該學科ニ關スル事項

第五條　各學級ニ學級主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

學級主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ當該學級ノ生徒ノ監督指導ノ任ニ當ル其ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

一　當該學級ノ生徒ノ勤惰及行狀ニ關スルコト

二　當該學級ノ生徒ノ試業成績ニ關スルコト

三　當該學級ノ生徒ノ訓育ニ關スルコト

四　當該學級ノ教室ノ整理ニ關スルコト

五　其ノ他當該學級ニ關スル事項

第六條　教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　學科課程教科書及授業時間ニ關スルコト

二　學級ノ編成ニ關スルコト

三　授業上ノ設備ニ關スルコト

四　生徒募集選拔試驗及入學ニ關スルコト

五　隨意科目選擇科目ニ關スルコト

六　授業及休業ニ關スルコト

七　生徒ノ學籍簿出席簿ニ關スルコト

八　生徒ノ休學、退學及除名ニ關スルコト

九　生徒ノ試業及成績考査ニ關スルコト

十　生徒ノ進級及卒業ニ關スルコト

十一　卒業生ノ大學進入ニ關スルコト

十二　在學及成績證明ニ關スルコト

十三　教官會議ニ關スルコト

十四　教官ノ缺勤、早退、遲刻屆ニ關スルコト

十五　學級主任及學級總代ニ關スルコト

十六　教官及教官室ニ關スルコト

十七　教室參觀人ニ關スルコト

十八　教務課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト

十九　教務課ニ關スル文書ノ整理保存ニ關スルコト

二十　其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第七條　生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　生徒ノ指導、監督、訓誨、懲戒ニ關スルコト

二　生徒ノ勤惰、行狀、遲刻、缺課、缺席ニ關スルコト

三　生徒ノ衞生及身体檢査ニ關スルコト

四　生徒ノ服裝ニ關スルコト

五　生徒ノ集會及掲示ニ關スルコト
六　生徒控所ニ關スルコト
七　生徒ノ身分證明及兵役ニ關スルコト
八　通學生徒ノ宿所ニ關スルコト
九　生徒ノ入寮退寮ニ關スルコト
十　寄宿寮ノ管理、警備、衛生、食事ニ關スルコト
十一　寄宿寮ノ當直ニ關スルコト
十二　校内營業者ニ關スルコト
十三　生徒課ニ關スル文書ノ作製及保管ニ關スルコト
十四　生徒課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
十五　其ノ他生徒ノ取締ニ關スル一切ノ事項

第八條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　御眞影及勅語ノ保管ニ關スルコト

二　學校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スルコト
三　儀式ニ關スルコト
四　學校一覽及統計報告ニ關スルコト
五　日誌及諸記錄ニ關スルコト
六　文書ノ接受及發送ニ關スルコト
七　諸規則ノ制定及改廢ニ關スルコト
八　職員ノ進退、身分及服務ニ關スルコト
九　職員ノ敘位及敘勳ニ關スルコト
十　職員出席簿ノ管理及調査ニ關スルコト
十一　職員ノ願屆ニ關スルコト
十二　卒業證書ニ關スルコト
十三　官報々告其ノ他ノ報告ニ關スルコト
十四　校長室及庶務課ノ備品ノ保管ニ關スルコト

十五　乘車乘船割引證ニ關スルコト
十六　當直ニ關スルコト
十七　外國教師ニ關スルコト
十八　寄附ニ關スルコト
十九　庶務ニ關スル文書ノ起案及公文書類ノ整理保存ニ關スルコト
二十　其ノ他各分課ノ主掌ニ屬セサル一切ノ事項

第九條　圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　圖書ノ保管及整理ニ關スルコト
二　圖書目錄ニ關スルコト
三　書庫及閱覽室ニ關スルコト
四　圖書ノ貸付ニ關スルコト
五　購入圖書ノ審査ニ關スルコト
六　其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第十條　會計課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル
一　歲入、歲出、豫算及決算ニ關スルコト
二　國有財產及資金管理ニ關スルコト
三　金錢收支及保管ニ關スルコト
四　物品ノ購入及不用品ノ處分ニ關スルコト
五　物品ノ出納及保管ニ關スルコト
六　營繕ニ關スルコト
七　校內ノ警備及衞生ニ關スルコト
八　傭人ノ進退及取締ニ關スルコト
九　會計ニ屬スル文書ノ起案、整理及保存ニ關スルコト
十　會計帳簿ノ整頓ニ關スルコト
十一　會計課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
十二　其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

三　文書處理規程

第一條　本校ニ到達シタル文書ハ總テ庶務課ニ於テ之ヲ收受シ左ノ各號ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

一　親展書其ノ他特定ノモノハ其ノ儘名宛人ニ配付スルコト

二　前號以外ノ文書ハ總テ之ヲ開封シ文書收受簿ニ登記シ文書ニ記號及年月日ヲ記入シ直ニ主掌分課ニ配付シ其ノ認印ヲ徵スルコト

三　二課以上ニ關係アル文書ハ關係ノ重キニ從ヒ之ヲ配付スルコト

四　配付ヲ受ケタル文書ニシテ他課主掌ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ庶務課ニ還付スヘシ

第二條　左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主掌分課ニ於テ直接之ヲ收受スヘシ

一　教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類

二　生徒ヨリ差出ス願屆書類

三　入學志願者心得、受驗名票等

四　其ノ他學校長ノ指定シタル書類

第三條　文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ各課ニ於テ遲滯ナク之ヲ調査シ相當處理案ヲ提出スヘシ

第四條　文書ノ內容上直ニ處理案ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ處理案ヲ要スルヤ否ヤ不明ナルトキハ校長ニ供閱シテ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條　決裁ヲ受ケントスル文書ニシテ他課ニ關聯スル事件ハ該課ニ合議スヘシ

第六條　決裁濟ノ文書ハ主掌分課ニ於テ決裁年月日ヲ記入シ速ニ之ヲ處理スヘシ

決裁ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ淨書校合シ其ノ議案書ヲ添ヘテ庶務課ニ送付スヘシ

第七條　庶務課ニ於テハ發送文書及議案書ニ番號ヲ附シ之ヲ文書件名簿ニ登記シテ發送ノ手續ヲ了シ議案書ヲ該課ニ返付スヘシ

文書發送ニ際シ親展書、書留郵便、至急電報等特別ノ取扱ヲ要スルモノハ主掌分課

ニ於テ其ノ議案書ニ標記スヘシ

第八條　庶務課ニ於テ文書ヲ發送シタルトキハ其ノ月日、受信名、發信名、料金等ヲ登記シ取扱主任檢印スヘシ

第九條　事件完結シタル文書ニシテ各課ニ保存スヘキモノヲ除ク外ハ總テ之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ

各分課ニ於テ保存スヘキ文書ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ之ヲ整理シ又ハ編纂スヘシ

四　文書保存規程

第一條　事件ノ完結シタル文書ハ各主掌分課ニ於テ整理編纂シテ之ヲ保存スヘシ

第二條　文書ノ保存ヲ區別シテ永年、十年、五年及一年ノ四種トシ其ノ保存スヘキ文書名ハ各課ニ於テ學校長ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三條　文書ハ左ノ各號ニ依リ編纂スヘシ

一　事件完結ノ順序ニ依リ曆年（會計ニ關スルモノハ會計年度）ヲ以テ分界トス

但シ紙數ノ多寡ニ依リ一箇年分ヲ便宜分綴シ又ハ數年分ヲ合綴スルコトヲ得

二　卷首ニ件名及索引丁數ヲ揭記シタル目錄ヲ附シ其ノ表紙ニ簿冊名、年若ハ年度、保存期間、記號及主掌課名ヲ記載シ數冊ニ分綴セシモノハ數字ノ符號ヲ附シ尙檢索ヲ容易ナラシムル爲前部切斷面ニ簿冊名、年若ハ年度、保存期間ヲ標記スルコト但シ保存期間一年ニ屬スル文書ニハ目錄ヲ附セサルコトヲ得

三　圖表類ニシテ合綴シ難キモノハ袋又ハ箱ニ納メテ名稱ヲ標記シ其ノ所在ヲ目錄

ニ附記スルコト

第四條　前條ニ依リ編纂シタル文書ハ文書臺帳（別紙樣式）ニ登錄シテ之ヲ一定ノ場所ニ藏置スヘシ

第五條　保存期間ハ文書完結ノ翌年ヨリ起算ス但シ會計年度ニ屬スルモノハ翌年度ヨリ起算スヘシ

第六條　保存期間ヲ了リ若ハ未タ了ラサルモ保存ノ必要ナシト認メタル文書ハ經伺ノ上之ヲ會計課ニ引繼クヘシ但シ一般ノ披閱ヲ避クヘキ文書ハ引繼前經伺ノ上相當ノ措置ヲ爲スヘシ

前項ノ引繼ヲ了リタルトキハ文書臺帳ニ廢棄年月日ヲ記入スヘシ

自昭和　年（度）
至昭和　年（度）
文書臺帳
課

名稱	年（年度）	記號	冊數	保存期間	保存終期	廢棄年月日

五　宿直勤務規程

第一條　執務時間外ニ生スル事務ヲ處理スル爲宿直ヲ置ク

第二條　本校書記及雇員ハ輪番ヲ以テ宿直ニ服スヘシ

前項以外ノ宿直ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ都度學校長特ニ之ヲ命ス

第三條　左ノ各號ノ一ニ當ル時ハ宿直ヲ免ス

一　賜暇中

二　忌引中

三　病氣其ノ他ノ事故ニ因ルトキ

四　出張ノ前日及歸校ノ翌日

五　新任者ハ着任ノ日ヨリ七日間

六　以上ノ外學校長ニ於テ除直スヘキ必要アリト認メタルトキ

第四條　宿直員ハ止ムヲ得サル事故ノ爲當日ノ勤務ニ差支アルトキハ同僚ヲ以テ代直

ヲ立ツルコトヲ得

第五條　宿直者ニハ其ノ前日マテニ庶務課ヨリ通知シ認印ヲ調スヘシ

第六條　宿直ノ時間ハ左ノ如シ

一　平日ハ退出時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ

二　休日ノ晝間ハ出勤時刻ヨリ退出時刻マテ及同夜間ハ退出時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ

第七條　宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ如シ

一　宿直名簿

二　宿直日誌

三　文書收受簿

四　文書發送簿

五　印　箱

六　郵便切手受拂簿

七　電信用語符號表
八　郵便切手及葉書
九　校務分掌規程
十　職員住所錄
十一　生徒宿所錄

第八條　宿直員勤務ノ主要事項概ネ左ノ如シ

一　接受シタル物件ヲ處理スルコト

二　校舍各室ノ鎖鑰ヲ管守スルコト

三　巡視ヲ監督シテ校舍內外ノ取締ヲ爲スコト

四　暴風雨及其ノ他ノ變事ニハ注意シテ校舍ノ內外ヲ巡視シ特ニ火氣ニ對シテ警戒スルコト

第九條　宿直中接受シタル物件ハ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一　親展公文書並職員生徒宛私文書及其ノ他ノ物件ハ翌日夫々配付シ電報其ノ他急

速ヲ要スト認メ得ヘキモノハ直ニ名宛人ニ送付スヘシ

二　親展ニアラサル公文書ハ直ニ開封シ夫々處理スヘシ

第十條　宿直中非常異變アルトキハ直ニ學校長、敎頭、各課長及學校附近在住ノ職員ニ通知シ事急ナルトキハ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ但シ別ニ定ムル警備規程ニ準據スヘシ

第十一條　宿直員ハ其ノ勤務中取扱タル事件ヲ宿直日誌ニ認メ翌日庶務課長ニ申報スヘク若シ翌日休暇ナルトキハ交替ノ者ニ必ス事務ノ引續ヲ爲シテ退出スヘシ

六　物品會計規程細則

第一章　總則

第一條　物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ本細則ニ依リ處理スヘシ

第二條　物品ハ其ノ性質及用法ニ從ヒ之ヲ大別シテ備品及消耗品ノ二種トス

第三條　各課又ハ特別教室ニ物品監守者及物品取扱主任者ヲ置キ物品ノ監守及消耗品ノ取扱ノ責ニ任セシム

第四條　前條ニ於ケル監守區域ハ學校長ノ定ムル所ニ據ル

第五條　物品ハ總テ記號ヲ付スヘシ但シ物品ノ性質形狀ニ依リ記號又ハ番號ヲ付シ難キモノハ此ノ限リニ在ラス

第二章　保管及出納

第六條　物品ノ保管及出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第七條　通常所要ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ一箇年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ決裁ヲ受ケ一回又ハ數回ニ取纏メ購入ノ手續ヲ爲シタル後之ヲ藏置シ請求ニ應シテ支給スヘシ

第八條　臨時所要ノ物品ハ各課又ハ特別教室ノ請求ニ依リ物品會計官吏ニ於テ其ノ都度學校長ノ決裁ヲ受ケ購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ支給スヘシ

第九條　生產及寄贈ニ係ル物品ハ物品會計官吏ニ於テ見積價格ヲ付シ學校長ノ決裁ヲ經テ受入、藏置若ハ支給ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　各課及特別教室ニ於テ所要ノ物品アルトキハ別ニ定ムル物件所要通告票ニ品名、數量及所要ノ事由ヲ詳記シ尙該主席者ノ檢印ヲ受ケ會計課ニ請求スヘシ但シ圖書ニ在リテハ圖書課ニ請求スルモノトス

第十一條　學術上機械ノ製作及修理ニ特殊ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル必要アルモノハ圖案及仕樣書ヲ添ヘ會計課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ物品會計官吏ヲ經テ

學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クヘシ但シ場合ニ依リテハ其ノ數量ヲ減シ又ハ請求ニ應セサルコトアルヘシ

第十三條　圖書課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クヘシ

第十四條　會計課ニ於テ物品ヲ請求者ニ支給セントスルトキハ物品支給命令票所定欄ヘ領收印ヲ徵シ請求者ニ交付スヘシ

第十五條　物品監守者及物品取扱主任者ハ物品監守簿及消耗品受拂簿ヲ設ケ物品ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ登記シ備品ニ在リテハ其ノ備付場所ヲ監守簿ニ記載シ常ニ其ノ所在ヲ明ニシ消耗品ニ在リテハ職員各自ノ請求ニ應シテ之ヲ支給シ帳簿ノ當該欄ニ領收印ヲ徵スヘシ

第十六條　各課及特別教室ニ於テ物品ノ不用ニ屬シタルモノアルトキハ直ニ會計課ニ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條　物品會計官吏前條ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アルトキハ保管ノ手續ヲ爲シ使用ノ見込ナキトキハ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十八條　物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者ハ其ノ事實ヲ詳記シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ學校長ノ裁定ヲ得責任者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若ハ代價ヲ辨償セシムルモノトス

第十九條　自然毀損ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其ノ見込ナキモノハ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　物品監守者及物品取扱主任者交代シタルトキハ前任者後任者立會ノ上引繼ヲ爲シ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ引繼年月日ヲ記シ且記名捺印スヘシ

第二十一條　物品會計官吏ハ物品出納保管ヲ明ニスル爲左ノ帳簿ヲ置クヘシ

一　普通備品出納簿

一　圖書出納簿

一　機械出納簿
一　標本出納簿
證票ニ基キ出納ヲ記入シ在庫及共用物品ノ現在ヲ明ニス
一　消耗品出納簿
證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及消費高ヲ明ニス

第二十二條　共用中ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督スヘシ
一　各課又ハ特別教室ノ消耗品受拂簿ヲ毎月一回消耗品出納簿ニ照査ス
二　毎年一回物品出納簿備品監守簿消耗品受拂簿ニ依リ各課又ハ教室ニ付キ現品ヲ査閲シ學校長ニ報告スヘシ
三　前號ノ調査ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シタルトキハ學校長ニ申告シ其ノ處理ヲ求ムヘシ

第三章　檢閲

第二十三條　物品檢閲ヲ分チテ定期、臨時ノ二トス

定期檢閲ハ毎年八月之ヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時必要ノ場合ニ之ヲ施行ス

第二十四條　物品檢閲員ハ委員長一名委員若干名トシ學校長職員中ヨリ之ヲ命ス

第二十五條　物品檢閲員ノ檢査スヘキ事項左ノ如シ
一　物品保管ノ適否
二　備品使用ノ適否
三　消耗品消費ノ有無
四　物品缺損ノ有無
五　帳簿ト現品トノ對照
六　其ノ他必要ナル事項

第二十六條　物品檢閲ノ際ハ在庫品ニ付テハ物品會計官吏使用中ノ物品ニ付テハ物品監守者又ハ物品取扱主任者其ノ席ニ列シ檢閲委員ノ質問ニ答フヘシ

第二十七條　物品檢閲員ニ於テ檢査上故障ナシト認メタルトキハ簿冊ニ檢印シテ之ヲ證スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ始末書ヲ徴スルコトアルヘシ

第二十八條　物品檢閲委員ハ其ノ檢査ヲ了シタルトキハ檢査顚末書ニ意見書ヲ付シ學
校長ニ申告スヘシ

七　圖書閲覧室規則

第一條　圖書閲覧室ニ入ルコトヲ得ルモノハ左ノ如シ

一　本校職員及舊職員

二　本校生徒及卒業生

三　校長ノ許可ヲ得タルモノ

第二條　圖書閲覧室ハ日曜日、大祭祝日及本校所定ノ休校日ヲ除キ毎日之ヲ開ク但シ
試驗中其ノ他必要ト認メタルトキハ休日ト雖モ特ニ之ヲ開クコトアルヘシ

第三條　圖書ヲ閲覧セントスル者ハ所定ノ用紙ニ必要事項ヲ記入シテ圖書課係員ニ差
出スヘシ

但シ本校生徒ハ圖書閲覧票ヲ添付スルコトヲ要ス

第四條　閲覧者ハ借覧圖書ヲ漫リニ閲覧室外ニ携出スヘカラス

第五條　閲覧者ハ借覧圖書ヲ他人ニ轉貸スヘカラス

第六條　閲覧者一人ニテ一時ニ閲覧スルヲ得ル圖書數ハ之ヲ制限スルコトアルヘシ

第七條　閲覧者ハ室内ニ於テ左ノ各項ヲ嚴守スヘシ

一　喫煙、音讀、雜談、食事等總テ他人ノ妨害トナルヘキ行爲ヲナサヽルコト

二　制服又ハ袴ヲ着用シ、靴又ハ草履ヲ穿ツコト

三　帽、外套、マント、襟巻等ヲ着用セサルコト

四　卓子、腰掛等備附品ノ位置ヲ變更セサルコト

五　圖書閲覧ニ必要ナキ物品ヲ携ヘ入ルヘカラサルコト

第八條　前條ノ規定ニ違背シタルモノ其ノ他不都合ノ行爲アリタルモノハ退去セシムルコトアルヘシ

第五　職員

（昭和五年七月現在）

學校長

文學士　十時彌　福岡

教授

英語　文學士　大谷正信　島根

修身　文學士　堀江久勝　長野

數學　理學士　下田卯市　廣島

獨語　文學士　中島一郎　石川

漢文　文學士　飯田御世吉郎　福岡

國語（兼）　文學士　北島葭江　岡山

英語　文學士　雜賀忠義　和歌山

英語　文學士　鳴澤寡愆　新潟

獨語　文學士　清家美材　愛媛

物理、數學、自然科學	兼生徒主事	理學士	仲瀨善太郎 京都
歷史、國語		文學士	星野歲馨 山口
獨語		文學士	山下秩光 埼玉
化學		理學士	池田英苗 廣島
國語	兼生徒主事	文學士	濱本勝治郎 京都
法制及經濟、獨語		法學士	上浦種一 和歌山
歷史	廣島文理科大學助教授	文學士	杉本直治郎 滋賀（在外研究中）
英語		文學士	山本外吉 石川
物理、數學		理學士	志茂山保光 京都
論理、獨語		文學士	長島喜三 神奈川
哲學、獨語		文學士	日高第四郎 東京
歷史、地理		文學士	中原與茂九郎 岡山（在外研究中）
化學、自然科學		理學士	比企修 福井

數學		理學士	石田巳代治 香川（休職中）
英語		文學士	小日向幹夫 東京
心理、獨語		文學士	增田幸一 東京
植物、動物、自然科學		理學士	渡邊清彥 靜岡
鑛物及地質、自然科學、圖畫		理學士	鈴木正利 茨城
漢文		文學士	松本正六 廣島
數學		理學士	山崎喜重郎 愛媛
生徒主事		文學士	北島葭江 岡山
國語	兼教授	理學士	仲瀨善太郎 京都
物理、數學、自然科學	（兼）教授	文學士	濱本勝治郎 京都
國語	（兼）教授		
配屬將校		步兵第十一聯隊附陸軍步兵少佐	關原六 新潟
教練			

助教授

體操	兼生徒主事補	陸軍步兵特務曹長	池上喜作 靜岡

講師

歷史、地理		文學士	久司慶三 和歌山
圖畫		廣島高等師範學校講師	原貫之助 福岡
圖畫		廣島高等工業學校教授 工學士	西山福治 高知
歷史		廣島文理科大學助教授 文學士	渡邊鼎 石川
動物		廣島高等師範學校教授 理學士	晴山省吾 岩手
教練		陸軍步兵少佐	南敏造 廣島
體操		陸軍步兵特務曹長	林廣助 熊本
體操		陸軍步兵特務曹長	松谷安藏 茨城

傭外國人教師

獨語		ヴルテル・ドーナート 獨逸

英語		チャールス・ウヰンスロップ・カップ 米國

武道教師

弓道		松木鶴太郎 福岡
柔道		佐々木茂 廣島
劍道	兼講師	松谷安藏 茨城

書記

		垂水延秀 石川
		大藪利 福岡
	收入官吏 物品會計官吏	木村國太郎 廣島
		須田勇助 群馬
		山野岩吉 鹿兒島

事務囑託

		三佐尾貫一 廣島

雇

助手

校醫

縣立廣島病院醫員　日本醫學士

倉本臺	廣島	
石原糾	岡山	
山田新	熊本	
小田宮美親	廣島	
三井勝	廣島	
住本憲明	廣島	
川上全	廣島	
金原忠人	廣島	
古川清德	廣島	
石川武雄	廣島	
山崎曉成	廣島	

學級主任

文科第三學年甲類一組	教授	日高第四郎	東京
文科第三學年甲類二組	教授	鳴澤寡愆	新潟
文科第三學年乙類	教授	上浦種一	和歌山
理科第三學年甲類	教授	下田卯市	廣島
理科第三學年乙類	教授	渡邊清彥	靜岡
文科第二學年甲類一組	教授	山本外吉	石川
文科第二學年甲類二組	教授	增田幸一	東京
文科第二學年乙類	教授	中島一郎	石川
理科第二學年甲類	教授	志茂山保光	京都
理科第二學年乙類	教授	比企修	福井
文科第一學年甲類一組	教授	飯田御世吉郎	福岡
文科第一學年甲類二組	教授	清家美材	愛媛

文科第一學年乙類
理科第一學年甲類
理科第一學年乙類

教授　山下秩光　埼玉
教授　鈴木正利　茨城
教授　松本正六　廣島

事務分掌

課長　教務課

課長　生徒課

生徒主事兼教授　北島葭江　岡山
教授兼生徒主事　仲瀬善太郎　京都
教授兼生徒主事　濱本勝治郎　京都
助教授兼生徒主事補　池上喜作　靜岡
講師　南敏造　廣島
講師　林廣助　熊本

教授　堀江久勝　長野
教授　鈴木正利　茨城
書記　須田勇助　群馬
雇　小田宮美視　廣島

庶務課長　兼寄宿寮勤務　教師兼講師　松谷安藏　茨城
庶務課長　囑託　三佐尾貫一　廣島
庶務課　雇　石原糾　岡山
圖書課長　兼　教授　星野歲馨　山口
圖書課　書記　大藪利　福岡
雇　小田宮美視　廣島
教授　大谷正信　島根
書記　垂水延秀　石川
雇　山田新　熊本
雇　金原忠人　廣島
雇　古川清德　廣島

會計課主任　書記　木村國太郎　廣島
書記　山野岩吉　鹿兒島
囑託　倉本臺　廣島
雇　川上全　廣島

第六生徒

一生徒氏名

文科第三學年甲類一組

青盛規矩二	廣島吳	
赤木二郎	廣島吳	
石岡二郎	廣島	福山誠之館
井上光親	愛知	奉天
今村眞三	廣島	廣高師附
植田憲六	廣島	吳
上野淳一	大阪	北野
浦元芳一	兵庫	龍野
小川達哉	廣島	大正
大坪喜代太郎	佐賀	第二神戸
大小田常夫	廣島	修道
長田龍	山梨	甲府
織田恒	廣島	福山誠之館
加納秀夫	廣島	廣島第一
川口隆三	大阪	開成
河野信一	廣島	廣島第一
韓雄吉	朝鮮	鏡城高普
倉重達夫	山口	岩國

栗田正治	愛知	明倫
小橋博志	岡山	市立吳
佐々木益	廣島	廣島第一
白石通一	愛媛	府中
妹尾茂喜	廣島	福山誠之館
大道寺好武	三重	岐阜
田坂猛	廣島	岩國
棚田新一	廣島	吳
辻村仁三郎	山口	柳井
豊岡勳三	廣島	吳
中井孝夫	廣島	吳
中塚健治	香川	吳
中野守	廣島	福山誠之館
名田清志	廣島	廣高師附
東秋郎	廣島	崇徳
前田雄恭	奈良	畝傍
三上則威	山口	岩國
三宅瑞彦	兵庫	廣島第一
宮本壽	廣島	山陽
藻塩一海	廣島	忠海
守田省三	廣島	三次
山肩正夫	廣島	修道
山崎利基	廣島	廣高師附
吉永清次郎	廣島	福山誠之館

文科第三學年甲類二組

奉天	赤松正一	廣島
廣島第一	朝枝誠兒	廣島
廣高師附	荒川矼介	廣島
廣島第一	石原直溫	岐阜
廣島第一	板野龜八郎	岡山
福山	井上稔	廣島
廣島第一	岩田良美	廣島
廣島第一	扇畑忠雄	廣島
修道	岡榮	廣島
福山誠之館	沖藤省三	廣島
東	沖原東平	山口
高資合格	小田二郎	山口
廣高師附	龜田迪昌	廣島
崇德	川口博	廣島
廣島第二	河野達吾	廣島
第三神戸	小谷鶴次	兵庫
福山誠之館	齋藤武夫	廣島
廣島第二	佐和隆研	廣島
平壤高普	申鉉炅	朝鮮
廣島第二	杉田亮造	廣島
柳井	角井迪	山口
大垣	高橋和夫	岐阜

廣島第一	柘植實	三重
廣島第一	辻茂雄	廣島
廣高師附	土井悟	廣島
廣島第一	中島清	廣島
東京第八	中西晃	鹿兒島
廣島第一	永野鎭雄	廣島
修道	中本登	廣島
廣島第一	中山照夫	廣島
吳	長山利久	廣島
廣高師附	平川篤雄	廣島
修道	藤山千里	山口
日彰館	卜沃柱	朝鮮
忠海	堀川武夫	廣島
第一神戸	松岡秀男	山口
吳	宮本喜一郎	廣島
廣高師附	安永隆	山口
廣高師附	若山巖	廣島
防府	渡邊三彌	山口

文科第三學年乙類

萩	赤木弘	山口
廣島第一	生田司	大阪
津山	植月勇	岡山
三次	上村勇	廣島

廣島	岡崎清記	廣島高師附	
廣島	岡村乾三	廣島高師附	
兵庫	小川清	姫路	
廣島	小田生一	廣島第一	
廣島	大江元	廣島第一	
徳島	大栗傳三	徳島	
茨城	大竹勝二	海草	
廣島	梶川榮一	廣島第一	
廣島	河相實	第一岡山	
廣島	神田道弘	金光	
廣島	木坂登一	高實合格	
朝鮮	金義燮	光州	
茨城	小西四郎	第二神戸	

廣島	河野應介	廣島高師附	
岐阜	後藤昇一	明倫	
大分	後藤武彦	名教	
廣島	齋藤進	松江	
廣島	島井敬三	修道	
朝鮮	炯圭	徽文高普	
兵庫	高井時雄	第二神戸	
愛知	田中清	登橋	
廣島	玉岡忍	廣島第一	
朝鮮	東浣	鏡城高普	
廣島	寺本正文	廣島第一	
奈良	富和宗一	郡山	
廣島	永井純三		

山口	中道幸雄	廣高師附	
廣島	中村彊作	廣島第一	
廣島	新田養三	廣島	
岡山	花田起志二	金光	
廣島	濱田榮	廣高師附	
山口	福田史郎	柳井	
廣島	藤井次郎	廣島第一	
大阪	古野升	堺	

理科第三學年甲類

京都	淺山秀夫	京都第一	
東京	磯部六郎	開成	
兵庫	市田左右一	東京第四	

山口	柳井星出普太	廣島	
廣島	高師附増原改暦	廣島	
愛媛	第一浦廣吉	廣島	
廣島	第一向井生三	廣島	
兵庫	第一芳水和雄	廣島	
岡山	津山好並健司	陽	
廣島	渡部太郎	山	

廣島	第一井上由扶	廣島	
東京	第一東京江藤秀雄	京都	
京都	第一岡川吉富	京都	

吳　岡　順一　廣島
第一岡山　小野昌一　岡山
麻布　大島景次　東京
廣高師附　影浦正俊　愛媛
廣島第一　川崎貞雄　廣島
廣高師附　木谷賢莊　廣島
奉天　北村市太郎　大阪
廣島第一　熊谷秀逸　廣島
關西學院　小崎正秀　愛媛
吳　坂本靜雄　廣島
畝傍　澤井豊之助　奈良
嘉穗　田中三郎　福岡
廣高師附　津山尙　廣島

廣島第一　中村常雄　廣島
廣島第二　西亀泰夫　廣島
第二神戸　橋谷昊　北海道
廣高師附　橋爪透　青森
京都第一　東原二郎　大阪
三次　藤井義六　廣島
廣島第一　藤野淳　愛媛
修猷館　升田俊雄　廣島
釜山　松村隆樹　大阪
廣島第一　三上良臣　佐賀
廣高師附　水山嘉德　廣島
大連第一　三宅正　廣島
今治　村上敏夫　愛媛

理科第三學年乙類

廣島第一　森佐一郎　廣島
廣島第一　山田隆次　廣島
修道　山本恒雄　廣島

東京第五　横田浩一　廣島
第二神戸　吉田彌太郎　兵庫

崇德　秋山賴光　廣島
萩　天野俊雄　山口
府中　池田勉　廣島
廣島商業　岡田五郎　廣島
廣島第一　金子一夫　山口
廣島第二　加納靜三　廣島
山陽　河口清　廣島
廣高師附　川島正史　廣島

吳　黒川清　廣島
廣島第一　河野義光　廣島
修道　高在珣　朝鮮
廣島第一　古賀公一　福岡
廣高師附　兒玉國美　廣島
廣島第二　佐伯安男　廣島
廣島第二　坂井皐造　廣島
三次　高橋浩之　廣島

廣島第一　竹野内政男　廣島
廣島第一　玉井靜顯　廣島
府中　檀上勉　廣島
松山　塚本二郎　愛媛
甲陽　津村宗治　兵庫
廣島第一　畠田谷武夫　廣島
廣島第一　馬場英雄　廣島
京都第一　濱田穰　岡山
廣島第一　濱井生三　廣島
廣島第一　檜脇信三　廣島

文科第二學年甲類一組

彦根　安部洋　福岡

修道　福永光夫　廣島
廣島第一　細川卓郎　廣島
高松　牧野幸男　香川
吳　松浦喜佐雄　廣島
德山　松原悟朗　山口
廣島第一　三嶋利雄　廣島
彦根　室谷高正　兵庫
忠海　望月紀之　廣島
甲府　矢崎定雄　山梨
日彰館　横山智　廣島

關西學院中　天野利夫　兵庫

東京第三　荒川政司　東京
忠海　井上光三　愛媛
廣島第二　入江仁士　廣島
德島　岩佐正澄　德島
市岡　大谷篤藏　鳥取
郡山　大西喜四夫　奈良
廣高師附　岡本淳　和歌山
市岡　落合龍太郎　秋田
奉天　折田義男　廣島
福山　神部孔憲　廣島
新宮　北口倉太　三重
猶興館　木寺道輝　長崎
修道　國安信夫　廣島

下妻　古宇田芳夫　茨城
洲本　兒島俊太郎　兵庫
廣島第一　河內山督治　山口
兵庫三田　小沼正　福島
濱田　佐々木秀二郎　島根
岡崎　杉浦義一　愛知
嘉穗　高野增雄　福岡
廣島第一　高橋嘉猷　廣島
岩國　田中肇　山口
京都第二　富田親長　熊本
新宮　中秀男　和歌山
平壤　鍋島俊成　熊本
豐中　西原順次郎　大阪

文科第二學年甲類二組

廣島第一	能登孝雄	廣島
廣島第一	坂重隆	廣島
山陽	平井政忠	廣島
廣島第一	弘松春海	高知
木之本	堀口屯	三重
大分	牧野增一	大分
下關	萬竹清	山口
龍山	稻垣宏	香川
大連第一	稻葉好夫	三重
堺	井上清	山口
西條	加藤祥一	愛媛
興風	森口富士雄	山口
中津	山縣正美	大分
專校檢試	山崎薰	京都
岩國	山元憲治	山口
廣島第一	横山示	廣島
大邱高普	徐廷植	朝鮮
平壤高普	李根錫	朝鮮
吳	金尾晃	廣島
廣島第二	鎌田道洋	鹿兒島
耐久	北山康夫	和歌山
廣島第二	木下泰雄	廣島

崇德	京極覺郎	廣島
山陽	黑瀨春樹	廣島
廣島第二	桑垣二郎	島根
金光	齋藤義雄	岡山
廣陵	櫻田靜務	廣島
德山	清木一雄	山口
千葉	椙村一男	千葉
吳	瀨戶茂	廣島
岩國	田中秀夫	山口
下關	戶谷和夫	岡山
三次	豐原信夫	廣島
海草	中谷英雄	和歌山
日高	中野弘	和歌山
吳	根津信夫	廣島
忠海	埜田淳吉	廣島
同志社	信江孝一	岡山
修道	平田泰美	廣島
今治	藤高正	愛媛
廣島第二	星野五十夫	廣島
豐中	馬越正夫	愛媛
宗像	眞武豐實	福岡
廣島第一	皆川一	茨城
高松	宮重左都夫	愛知
海南	柳瀨篤	和歌山
吳市立	山形正雄	廣島
開成	山口清	東京

文科第二學年乙類

吳	山崎久之	廣島
廣島第一	山戸壽也	廣島
修道	結城秋市	廣島
廣島第一	飯田信光	福岡
忠海	梅林正明	廣島
旅順第一	大川忠一郎	靜岡
安東	大原榮一	廣島
堺	岡信彦	和歌山
第一岡山	小田正二	岡山
丸亀	香川正信	香川
鳳鳴	加藤豪	和歌山
京都高做高普	劉亨植	朝鮮
臺灣	黃榮法	
廣島第一	金友芳	廣島
修道	久保誠	廣島
攻玉社	衣川清	兵庫
廣島第一	近藤照彥	廣島
修道	栗栖勇	廣島
丸亀	孝壽芳春	香川
府中	後藤穗	廣島
東山	齋藤實	岡山

廣高師附	杉本行雄	廣島
第一神戸	瀧川武	兵庫
廣島第一	龍山無逸	廣島
修道	田中清嵐	東京
崇德	東岡義人	廣島
廣高師附	土井義生	廣島
甲府	內藤實	山梨
天王寺	中田正直	秋田
龍山	中村卓	廣島
廣高師附	西毅一	島根
廣高師附	西原茂正	廣島
修道	秦恒雄	廣島
市岡	濱田正義	大阪
第二岡山	原尙武	岡山
廣島第一	藤野涉	愛媛
廣島第二	古川一郎	福島
吳市立	本田忠德	廣島
東京幼年	松井忠夫	福岡
丸亀	三宅季二	香川
京都第一	村上次男	山口
海南	森本新三	和歌山
崇德	山田悅二	廣島
廣島第一	吉田司	廣島
修道	米本三彌	廣島

理科第二學年甲類

葦山	相磯和嘉	靜岡	
脇町	秋山和躬	德島	
京華	東堯	東京	
平壕	伊藤健	廣島	
吳	井野昌治	千葉	
和歌山	小山爲治	和歌山	
神戸第一	沖川久人	兵庫	
大阪茨木	尾山芳雄	富山	
廣	國近三吾	廣島	
廣島第一	玄道正夫	廣島	
吳	河野勇	廣島	

北野	楠本健次	長崎	
修道	後藤安直	熊本	
廣高師附	宍戸二郎	廣島	
修道	塩谷一馬	廣島	
刈谷	杉浦達也	愛知	
防府	鈴木胖	靜岡	
山陽	高橋俊一	熊本	
富岡	近清惠一	德島	
廣島第二	土田稔	廣島	
修道	堤顯雄	廣島	
廣高師附	津山滋	廣島	

龍山	鶴崎敏胤	佐賀	
廣島第一	冨岡健二	廣島	
京城	冨野井正	廣島	
德山	弘美和生	山口	
吳	福岡徹	廣島	
那山	藤岡恒一	奈良	
岩見澤	藤本悟郎	香川	
住吉	星野修	大阪	
住吉	堀江忠勇	大阪	
第二神戸	松平信治	京都	
廣島第一	前田光	廣島	

理科第二學年乙類

海草	前田貞美	和歌山	
桑名	間片泰平	三重	
修道	三戸左內	廣島	
東京第五	峯恭平	長崎	
廣高師附	三好正	廣島	
大川	六車正實	香川	
廣高師附	村上滿洲男	廣島	
膳所	森乾六	滋賀	
住吉	森堅太郎	廣島	
廣島第二	森恒忠	高知	
第一東京	矢木次郎	東京	

福山誠之館　石井四良　廣島
北野　生駒一彦　岐阜
柳井　井内猛　山口
崇徳　岩田武夫　廣島
海草　岩橋武和　和歌山
田邊　上野功　和歌山
横濱第一　江澤義彦　千葉
京華　太田肇　廣島
廣島第二　岡村豪二　廣島
修道　大山省三　岡山
山陽　小掘正　廣島
木更津　大日方惟信　千葉
廣島第二　加賀美和忠　廣島

廣島第一　門英雄　廣島
今宮　久島諦二　山形
北野　國友鎧一　宮城
廣島第二　河野和彦　廣島
光州　崔璽東　朝鮮
宇治山田　作田確次郎　三重
廣島第一　眞田實　廣島
東北學院　信夫洋太郎　宮城
臨順　澁谷龍雄　東京
麻布　曾人樸　臺灣
修道　大德幸夫　廣島
福山誠之館　高橋渡　廣島
飯田　館林宣夫　長野

津山　田中明　岡山
大連第一　近森正文　高知
山陽　土居清　廣島
福岡　土井傳　三重
廣島第一　土肥元二　廣島
修道　中濱欽時　廣島
修道　中村覺　廣島
德山　西田滋　山口
堺　服部悅郎　長崎
廣島第一　原田東帳　廣島

文科第一學年甲類一組

豐岡　秋山連大夫　兵庫

岩國　藤本馨　山口
吳市立　藤本遵　廣島
山陽　正月三一　廣島
修道　松村忠利　廣島
廣高師附　森田愛之　廣島
德島　森敏幸　德島
廣島第一　八木武博　廣島
專校檢試　山元三良　高知
豐中　吉野宗次郎　滋賀

松江　飯塚俊夫　島根

青島日本	井下田孝一	千葉
山陽	石田保三	廣島
吳第一	井上武雄	岡山
山陽	上田勇男	廣島
廣島第二	上野友男	廣島
福山誠之館	岡本毅	廣島
柳井	小方友二	山口
宮津	小倉裕	京都
嘉穗	大屋五郎	福岡
崇德	叶木忠夫	廣島
廣島第一	金森俊雄	島根
和歌山	菊池謙一	和歌山
廣島第一	木村守	廣島

廣高師附	久保良敏	佐賀
東京開成	黑田一雄	岡山
廣高師附	河野正通	廣島
豐津	定村直之	福岡
岡山第二	鈴木幹雄	廣島
修道	高田甚宗	廣島
濱松第二	竹內正男	靜岡
宇土	德永善造	熊本
專校檢試	中峠國夫	廣島
京都第二	中埜幸雄	京都
京城	永島孝雄	山梨
洲本	野口芳明	兵庫
長府	萩野源一	山口

湘南	橋本吉之助	廣島
關西學院	原田公平	兵庫
安東	福原忠雄	奈良
東京第四	藤岡春彥	東京
奈良	本庄正夫	兵庫
廣高師附	御澤金彌	大阪

文科第一學年甲類二組

廣島第一	淺賀秀夫	岐阜
明石	飯森十郎	福岡
鳥取第二	入澤敏三	鳥取
廣島第二	岩本幹三	廣島
鴻城	上野秀雄	山口

萩	光田幸夫	山口
畝傍	森川富治	奈良
吉田	保田歡三	愛媛
廣島第一	山木稔	廣島
廣島第一	山本薰	廣島
廣島第二	渡邊信	大分

築上	榎一治	福岡
和歌山	小川宗一郎	和歌山
廣陵	大井哲雄	廣島
萩	大藤義人	山口
小倉	海田稔	山口

羅南　柏村壽雄　廣島
平壤高普　韓熙穆　朝鮮
福山誠之館　北村信男　廣島
福山誠之館　小西浩三郎　廣島
小倉　財津孝正　東京
宇治山田　坂口潔　三重
廣島第一　眞川淳　廣島
京城　七田正夫　佐賀
第二神戸　杉田有　三重
田邊　杉若義一　和歌山
青山師範　關口伊三郎　東京
小倉　妹尾正一　岡山
吉　高橋啓介　大阪

山陽　高橋義夫　廣島
廣島第二　寺地訓造　廣島
柳井　島越良雄　山口
廣島第一　内藤陽二　廣島
廣高師附　二木雅美　廣島
廣高師附　西村正藏　廣島
濱田　原田良三　島根
津　平松謙一　三重
廣高師附　廣渡浩美　福岡
上野　福内政郎　三重
鵜町　藤井宏　德島
京城第一高普　朴炳敎　朝鮮
鳥取第二　眞野宏　鳥取

粉河　御木茂高　和歌山
佐伯　矢野久元　大分
南筑山崎七郎　福岡

文科第一學年乙類

長崎　青木健　山口
吳第一　青盛卓郎　廣島
高松　石井義彦　岩手
第三神戸　磯尾正夫　鳥取
柏原　稻次悌二　兵庫
高松　今澤正躬　香川
大連第二　井本健　大阪
湘南　岩上幸治　栃木

矢掛　山下保市　岡山
廣高師附　山登一男　廣島

府中　植村文夫　三重
德島　牛山啓二　長野
廣島第一　撰司郎　廣島
福山誠之館　岡本仁　廣島
橫濱第二　笠島重勝　東京
岡山第二　樫田忠敬　東京
廣島第一　梶川英夫　廣島
歟傷　河合庄之進　奈良

山陽　久保田明治　廣島
廣高師附　兒玉剛　廣島
廣高師附　小松原克之　廣島
吳第二　佐藤忠雄　廣島
豐中　島谷一郎　大阪
廣島第一　清水潔　廣島
吳第二　住吉勇　廣島
龍野　高瀨隆　兵庫
山陽　筧中靜雄　廣島
廣島第一　長岡迪夫　廣島
大連第二　永野萬壽夫　廣島
天王寺　鍋島廣文　佐賀
德島　西野寬次郎　德島

吳第一　林新緣　廣島
關西學院　久林文芳　兵庫
大正　藤井權三　廣島
北京　古島公明　埼玉
廣島第二　堀江正治　長野
吳第二　水野司郎　廣島
本鄉　村上淳一　鳥取
廣島第一　八林秀三　廣島
新宮　山口圭一　和歌山
廣島第一　山崎荒助　廣島
廣島商業　山崎茂　廣島

理科第一學年甲類

京都第一　淺野和夫　京都
旅順第一　生田努　山口
生野　井口達三　岡山
廣島第一　今井修之　廣島
畝傍　今津忠友　奈良
上野　岩田久太夫　三重
天王寺　上荷敬一　大阪
廣島第一　岡藤敬一　山口
廣島第一　大坪朝男　佐賀
千葉　貝塚敏彌　千葉
小倉　久芳祥一　福岡

廣高師附　小日向定夫　東京
大邱　酒卷幸信　德島
廣島第一　佐々木茂　廣島
富岡　篠野通　德島
岩國　塩谷龍二　山口
廣島第二　鈴岡奬　廣島
旭川　鈴木正　北海道
山陽　高橋清毅　廣島
市岡　高見薰　鳥取
吳第一　多幾山一敏　廣島
今治　丹下健三　愛媛

理科第一學年乙類

廣島第一	筑瀬　懋	奈良	
大連第二	中嶌知行	熊本	
廣高師附	中城忠彦	高知	
濱田	中山一宏	島根	
廣高師附	西垣正彦	京都	
京華	林克巳	東京	
吳第一	林茂樹	廣島	
岩國	平岡綠山	口	
北野	廣瀬一郎	滋賀	
三次	吾河專一	廣島	
中津	秋吉英彦	大分	
天王寺	三田　章	大阪	
廣高師附	三戸義則	廣島	
大邱	三善貞輝	廣島	
廣島第一	村本忠夫	廣島	
廣島第一	森　博美	廣島	
廣高師附	山口文吾	廣島	
廣高師附	横井鎭男	廣島	
三豊	吉田紀行	香川	
佐伯	天野毅猪	愛知	
吳第一	荒木久一	富山	

東京第六	有村義男	大分	
廣島第一	伊藤彰彰	廣島	
長府	伊藤健治	山口	
京城公立	稻本　眞	和歌山	
廣島第二	內村正雄	和歌山	
廣島第一	大杉哲三	廣島	
廣島第一	尾曾越文亮	廣島	
廣島第一	梶山茂信	廣島	
濱田	嘉戸　剛	島根	
京城	河野正三郎	廣島	
岩國	吉川春男	廣島	
京城	古城朝彥	大分	
廣高師附	佐々木英信	香川	
廣高師附	佐藤眞次	廣島	
大阪桃山	島野　豊	兵庫	
修道	庄司春陸	廣島	
千葉	鈴木　敏	千葉	
日彰館	高橋圭爾	廣島	
崇德	竹本　寬	廣島	
第二神戸	田中三郎	兵庫	
目白	長郷鮮一	東京	
世羅	寺野六郎	廣島	
堺	友淵又右衛門	大阪	
今治	平井美之	廣島	
廣島第一	福島　琢	廣島	
廣高師附	藤井正一	兵庫	

廣島第一	三村光男	岡山	
德山	水木博山	山口	
廣島第一	村上元孝	廣島	
廣島第一	村上基千代	廣島	
甲府	望月省次	山梨	
小倉	森末信行	岡山	
福山誠之館	安原麟太郎	廣島	
修道	養祖貞夫	廣島	
山陽	横路慶英	廣島	
橫手	渡邊彰	秋田	

二　在學者本籍府縣別表

府縣名	文科	理科	計
北海道	一	四	五
東京	八	九	一七
京都	三	五	八
大阪	一〇	八	一八
神奈川	一	七	八
兵庫	一七	七	二四
長崎	一	三	四
新潟	一	一	二
埼玉	一	一	二
栃木	一	一	二
千葉	二	五	七
茨城	四	一	五
奈良	六	四	一〇

三重	一〇	四	一四
愛知	五	二	七
靜岡	二	二	四
山梨	三	二	五
滋賀	—	三	三
岐阜	四	一	五
長野	二	一	三
宮城	—	二	二
福島	二	—	二
岩手	—	—	—
青森	—	一	一
山形	—	一	一
秋田	二	一	三
岩手	一	—	一
福井	—	—	—
富山	—	二	二
鳥取	五	一	六
島根	七	二	九

岡山	一五	七	二二
廣島	一五五	一一二	二六七
山口	三一	一三	四四
和歌山	一四	六	二〇
德島	四	五	九
香川	六	五	一一
愛媛	九	六	一五
高知	一	四	五
福岡	一一	三	一四
大分	五	三	八
佐賀	五	三	八
熊本	三	三	六
鹿兒島	二	—	二
朝鮮	△一一	二	△一三
臺灣	一	一	二
計	△三六九一	二四一	△六一〇一

備考 △印ハ聽講生ニシテ内數ナリ

三 入學者學歷別表

科別 / 年度別	入學者 中學四年修了 昭和五年	同 四年	同 三年	同 二年	大正十五年以前	中學卒業 昭和五年	同 四年	同 三年	同 二年	大正十五年以前	計
文科	二八	—	—	—	—	五〇	二八	六	二	二	一一六
理科	一四	—	一	—	—	三四	一八	七	一	—	七五
計	四二	—	一	—	—	八四	四六	一三	三	二	一九一

同上百分比	中學四年修了 昭和五年	同 四年	同 三年	同 二年	大正十五年以前	中學卒業 昭和五年	同 四年	同 三年	同 二年	大正十五年以前	計
文科	二四、一	—	—	—	—	四三、一	二四、一	五、二	一、七	一、七	一〇〇
理科	一八、七	—	一、三	—	—	四五、三	三四、〇	九、三	一、三	—	一〇〇
計	二三、〇	—	〇、五	—	—	四四、〇	二四、一	六、八	一、六	一、〇	一〇〇

四 生徒年齡別表

種別	最高年齡 文科	最高年齡 理科	最低年齡 文科	最低年齡 理科	平均年齡 文科	平均年齡 理科
新入生	二七、四 年月	二一、五 年月	一六、三 年月	一六、四 年月	一七、九 年月	一八、二 年月
第一學年	二七、四	二一、一	一六、三	一六、四	一七、一〇	一八、五
第二學年	二三、二	二三、五	一六、九	一六、四	一九、六	一九、二
第三學年	二四、九	二四、二	一七、六	一七、二	二〇、七	二〇、三

五 卒業生大學進入表（昭和五年）

種別	文科卒業者 甲類	文科卒業者 乙類	文科卒業者 計	理科卒業者 甲類	理科卒業者 乙類	理科卒業者 計	合計
東大法學部法律學科	一六	七	二三	—	—	—	二三
同 政治學科	一	一	二	—	—	—	二
東大經濟學部經濟學科	三	—	三	—	—	—	三
同 商業學科	一	四	五	—	—	—	五
東大文學部國文學科	—	一	一	—	—	—	一
同 東洋史學科	一	—	一	—	—	—	一
同 西洋史學科	二	一	三	—	—	—	三
同 哲學科	一	—	一	—	—	—	一
同 社會學科	一	—	一	—	—	—	一

同　教育學科	｜	一	一	｜	｜	｜	一
同　宗教學科	一	｜	一	｜	｜	｜	一
同　英吉利文學科	四	｜	四	｜	｜	｜	四
同　獨逸文學科	｜	六	六	｜	｜	｜	六
同　佛蘭西文學科	一	｜	一	｜	｜	｜	一
同　美學美術史學科	二	｜	二	｜	｜	｜	二
東大工學部機械工學科	｜	｜	｜	四	｜	四	四
同　土木工學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
同　鑛山及冶金學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
東大醫學部醫學科	｜	｜	｜	｜	二	二	二
東大理學部物理學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
東大農學部農業土木專攻	｜	｜	｜	一	｜	一	一
京大法學部	八	五	一三	｜	｜	｜	一三
京大經濟學部	三	二	五	一	｜	一	六
京大文學部英文學科	二	｜	二	｜	｜	｜	二
同　獨文學科	｜	一	一	｜	｜	｜	一
同　國文學科	二	｜	二	｜	｜	｜	二

同　哲學科	四	｜	四	｜	｜	｜	四
京大工學部電氣工學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
同　工業化學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
同　採鑛冶金學科	｜	｜	｜	四	｜	四	四
京大醫學部	｜	｜	｜	｜	五	五	五
京大農學部農學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
同　農林化學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
同　農林工學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
京大理學部物理學科	｜	｜	｜	｜	｜	一	一
同　化學科	｜	｜	｜	｜	一	一	一
九大法文學科	一	二	三	｜	｜	｜	三
九大醫學科	｜	｜	｜	一	二	三	三
九大工學部機械工學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
同　造船工學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
同　冶金工學科	｜	｜	｜	一	｜	一	一
東北大醫學部	｜	｜	｜	｜	一	一	一
東北大法文學部	一	｜	一	｜	｜	｜	一

岡山醫大	一	一	一	一	一	一
千葉醫大	一	一	一	一	一	一
長崎醫大	一	一	一	一	一	一
神戸商大	一	二	二	三	二	二
廣島文理大	二	三	五	一七	一〇	九
其ノ他	一二	二一	三七	一〇八	三四	二六
合計	七一	三七	一〇八	三四	二六	六〇

第七卒業生

（卒業生各頭書ニ（東）法トアルハ東京帝國大學法學士、（京文トアルハ京都帝國大學文學部在學者ヲ示ス）

昭和二年三月十日卒業（第一回）

文科甲類

（京）	法	蘆田英雄	兵庫	
（東）	經	東田以德	廣島	
（京）	經	安藤忠雄	廣島	
（京）	經	石井英夫	廣島	
（東）	經	伊藤秋生	廣島	
京	文	伊藤員馬	廣島	
（京）	經	井上正作	兵庫	
（東）	經	牛尾二郎	廣島	
東	法	宇都宮壽	愛媛	
（東）	法	小川清矣	愛媛	
（京）	經	小野田五男	宮崎	
（京）	法	大久保忠昌	靜岡	
（東）	文	太田音次郎	岡山	
東	文	河野光男	廣島	
（東）	法	數山英一	富山	
（京）	經	岸本文博	福岡	
（東）	法	北　彰	廣島	
（京）	經	木地雄吉	大阪	

（東）文 栗宗繁 広島
（東）経 古賀要 福岡
（京）法 後藤文雄 広島
京 文 小日向恒夫 東京
東 法 小松正次郎 高知
（京）法 近藤常夫 香川
東 法 佐伯弘 広島
（東）法 篠村周三 広島
京 経 佐々木勇藏 大阪
（東）法 潮村浪雄 山口
京 経 重野覺 山口
京 経 末田豊 東京
（東）経 末盛衛 広島

（東）経 杉丙三 山口
（東）経 關口勝太郎 広島
京 文 田坂省三 山口
東 法 田島義治 神奈川
京 法 立本肇 広島
京 経 田中實稻 高知
京 文 谷本勉 広島
（東）経 辻完 広島
東 経 富狹工 広島
（京）経 新延譽一 広島
（東）経 橋本三三 広島
（京）経 松本休次郎 京都
（東北）法 松本信一 山口
（京）経 三井眞一朗 愛知
（東）経 宮下弘史 広島
東 経 村上哲夫 広島
東 法 山川肇 広島
東 経 森田正輝 広島
（東）法 山口一夫 広島
（京）経 山本照 広島
（京）文 和田庸三 滋賀
（京）文 岩根保重 山口

（京）法 林友壽 広島
（東）法 原田正 兵庫
（京）文 原田正雄 広島
（京）法 平賀五男 広島
（京）経 廣澤健二 富山
（東）文 廣谷千代造 広島
（京）法 藤永龍雄 広島
東 経 堀川八郎 広島
東 経 間島整治 香川
京 法 松室達雄 兵庫

文科乙類

東 法 伊藤日出雄 広島

(東)	法	衛藤干城	大分
東	文	奥平英雄	廣島
(京)	文	大角良雄	大阪
(京)	文	加計敏吉	廣島
東	法	勝矢中	廣島
東	文	川島正亮	廣島
(京)	法	木村幸一	廣島
京	文	楠木保	廣島
(東)	法	久留島孜	廣島
(東)	経	兒島義彦	廣島
京	経	酒井正夫	廣島
(京)	法	佐藤秀雄	廣島
(京)	文	下程勇吉	廣島

(京)	経	宗義三太	福岡
(東)	法	武田邦雄	廣島
東	法	垂水巖	大分
(東)	法	德永秀夫	廣島
(京)	文	土家良夫	京都
(京)	法	戸野原史朗	廣島
(東)	法	長岡彌一	廣島
(東)	経	中川壽	廣島
(京)	文	古谷省三	山口
(京)	文	平田弘	熊本
(京)	経	福島武	東京
東北	法文	福田幹雄	山口
京	文	富士川義彦	廣島

理科甲類

(京)	経	松岡功	大分
(京)	経	松田堅三	鹿兒島
(東)	経	三上新	廣島
東	醫	足立忠	北海道
(東)	農	池内貞慶	廣島
(京)	農	今村新	廣島
東	理	打海秀夫	廣島
(東)	理	岡村確	廣島
(九)	農	大熊義一	兵庫
(東)	工	川崎辰國	廣島
		川瀨秀夫	廣島

京	経	村上勝三	廣島
(京)	経	村上弘	山口
京	法	横田千二	大分
(東)	理	神田清	愛知
(東)	農	倉茂英次郎	新潟
九	工	貫田武	廣島
(東)	工	玄道啓三	廣島
(東)	工	宍戸修	廣島
東	工	杉浦正美	靜岡
(東)	工	仙頭忠	廣島
東北	理	竹内元一	廣島

（京）文 田中政吾 廣島
京 工 田中良太郎 滋賀
京 農 玉木義彦 廣島
九 工 手島義勇 大分
東 農 寺田庄次郎 廣島
京 農 辻康彦 廣島
（京）経 長坂世雄 廣島

理科乙類

京 醫 荒田三郎 山口
日 醫 有吉三男 山口
岡 醫 栗屋一歩 廣島
京 農 岡田琢郎 廣島

千 醫 大谷義夫 廣島
死亡 川本悟 廣島
京 醫 川本重雄 廣島
（九）法 金應鉄 朝鮮

京 理 中村金介 岡山
（東）農 根本廣明 福島
（京）理 松本德智 廣島
（東）工 牧島五郎 山口
岡 醫 山崎三省 廣島
（東）工 水野嘉勝 廣島
京 醫 中村金介 岡山
（京）理 松本德智 廣島
（東）農 根本廣明 福島
（東）工 牧島五郎 山口
岡 醫 山崎三省 廣島
（東）工 水野嘉勝 廣島

長 醫 熊巳四郎 廣島
岡 醫 藏本養三 廣島
京 醫 近藤達雄 廣島
千 醫 佐々猛 岡山
九 醫 杉岡直登 廣島
（東北）理 高木通泰 廣島
愛 醫 中川政信 廣島
長 醫 永田友諒 長崎
京 経 鍋島尚三 廣島

（京）理 林彌兵衛 山口
九 醫 羽山秀雄 廣島
京 醫 東田巧 廣島
京 醫 福井正雄 山口
岡 醫 松本孝雄 岡山
東北 理 宮本義男 山形
九 農 行友憲次 山口
愛 醫 波多野克己 廣島

昭和三年三月十日卒業（第二回）

文科甲類

京 法 安藝英二 香川
京 法 池高朗 廣島

京経	井内松一	廣島	
京法	今村新太郎	東京	
京経	岩村喜代人	廣島	
京文	惠美知定	廣島	
東文	小川惠正	愛知	
東法	太田正	廣島	
京経	大東守太郎	福岡	
東経	神田正夫	廣島	
京経	冠稔實	廣島	
京文	龜井藤吉	高知	
京法	川崎正夫	廣島	
東経	北川四郎	廣島	
九法文	木地本辰助	廣島	

東経	吉川雅	廣島	
京経	栗田磐三	兵庫	
京経	栗原彌太郎	埼玉	
東経	笹本忠恕	靜岡	
京経	佐藤勝三	愛媛	
京法	佐藤二郎	大阪	
東文	澤野武馬	廣島	
京文	三光迪	廣島	
東文	篠田隆治	靜岡	
京法	下野一市	廣島	
京法	城仁策	山口	
京経	角南登三太	岡山	
東法	大樂嘉一郎	山口	

東経	高槻紀男	廣島	
東経	龍田靜夫	廣島	
京法	玉木伸彦	廣島	
東経	鼓義男	山口	
東法	津野一郎	大阪	
京経	坪井義男	香川	
京法	中川正	山口	
京文	長江道太郎	岡山	
東法	仲野修	大阪	
九法文	長尾篤	愛媛	
東経	二井內嘉德	廣島	
東文	西孝	山口	
京法	西谷四郎	廣島	

東経	西岡定	廣島	
京経	野村宥三	廣島	
東経	秦正夫	廣島	
京法	花本藏之助	廣島	
東経	馬場春雄	廣島	
京文	林茂	廣島	
	平原正人	廣島	
東法	福島逸雄	熊本	
東経	福原邦輔	廣島	
東法	泓本小八郎	和歌山	
京法	藤井香	廣島	
東経	船岡鐵司	廣島	
東法	正木巽	廣島	

東京 経 松島 紱 廣島
東京 経 松本 博 廣島
東京 文 眞鍋義雄 愛媛
東京 法 南丘千卷 和歌山
東京 法 三原 績 廣島
東京 法 村上國平 山口
東京 法 本村 浩 鳥取
東京 経 守川成太郎 山口
東京 法 森田文五 廣島
東京 文 森本忠雄 高知

文科乙類

東京 法 天野常次郎 廣島

東京 文 安江茂三郎 岐阜
東京 経 矢田鴻一 山口
東京 法 柳田俊雄 京都
東京 法 山岡春三 廣島
東京 法 山根彦治郎 廣島
東京 法 山本義明 愛媛
東京 法 芳川壽夫 廣島
東京 法 李 鐘澄 朝鮮
東京 法 渡里今市 廣島
東京 法 渡利全策 島根

東京 文 植田敏郎 廣島

京都 法 岡本正信 福井
京都 法 大島一幸 岡山
京都 文 小田切香苗 栃木
東京 法 加藤武夫 廣島
東京 法 上垣内武 兵庫
東京 法 熊谷英麿 廣島
東京 法 熊野德次郎 廣島
京都 法 兒玉壽雄 熊本
東京 文 小林四郎 廣島
東京 法 杉原靜雄 廣島
京都 文 諏澤太郎 廣島
京都 法 染谷敏 埼玉
京都 法 谷本義二 香川

京都 文 德澤龍潭 廣島
東京 経 朝長光 長崎
京都 法 難波忠晴 岡山
東京 経 葉田秀二 兵庫
京都 法 濱田文三 廣島
東京 法 原武夫 島根
東京 経 播本福一 廣島
京都 法 福山嗣良 廣島
京都 法 古田郁郎 岐阜
京都 法 藤田次郎 大阪
京都 法 逸見顯善 東京
東京 文 溝手佐 廣島
京都 文 宮本清 愛媛

九法文 宮本滋 和歌山
九法文 山脇泰 愛媛

理科甲類

長醫 池田岩雄 廣島
京農 泉克巳 廣島
京農 井東敬三 廣島
京醫 井口哲 廣島
東工 岡田幸雄 廣島
京農 岡田勗 廣島
東醫 小河九一郎 廣島
廣文理 織田秀雄 廣島
東農 落合英一 栃木

東文 山本宗本 埼玉
東工 太田佐久良 島根
京理 木村太郎 廣島
京工 國安虎雄 京都
東農 楠原哲之助 廣島
東工 重滿通彌 廣島
東農 新原清明 廣島
東工 鈴木良雄 廣島
東理 竹內義孝 島根
東北工 瀧元 廣島

東工 千柄實勇 廣島
京農 友宗忠雄 廣島
東農 永井行夫 廣島
東工 長尾準三 廣島
京文 仲佐信 千葉
東工 中村清臣 兵庫
東工 林良作 廣島
東農 福原忠信 廣島

京理 松島勝 廣島
京農 松丸勳 鳥取
京工 宮下俊二 兵庫
東工 村上末雄 廣島
愛醫 森河信敏 廣島
東醫 守友豊治 山口
京法 李在熙 朝鮮
東工 若林兵滋 廣島

理科乙類

岡醫 井上雄吾 廣島
九農 池田一美 廣島
愛醫 片山信 山口

東北工 龜石計夫 和歌山
京農 川居德治 兵庫
京醫 久賀俊文 廣島

京醫　久保田靜雄　廣島
大醫　兒玉安郎　廣島
東醫　清英夫　東京
九醫　齋藤章　廣島
東醫　酒井皐二　廣島
京農　信濃榮　兵庫
岡醫　高野惠　廣島
　　田中繁巳　廣島
千醫　寺崎由太郎　東京
九醫　中川太郎　廣島
廣文理　中川道太朗　滋賀
岡醫　鍋島清志　廣島

東醫　新延信吉　廣島
愛醫　西原清一　廣島
岡醫　新田司郎　廣島
京醫　兵頭通方　愛媛
京理　藤井正道　廣島
九醫　益田霞　廣島
長醫　三木征治　福岡
京醫　水野宗之　廣島
東農　宮鄉吉之助　廣島
東農　藥師神嘉雄　愛媛
　　米川清三　廣島
　　渡邊六郎　愛媛

昭和四年三月十日卒業（第三回）

文科甲類

京法　青江秀治　岡山
京文　淺野巧美　石川
神商　新井吾六　廣島
　　池田秀夫　香川
京法　池ノ內邦人　兵庫
京法　石岡利男　廣島
九法文　石川政太郎　愛媛
京文　井出岩太　愛媛
東文　石光葆　廣島
東經　伊保木啓三　京都

神商　植松正久　香川
九農　江本哲雄　山口
東法　岡田勤　廣島
京經　奥村堯　廣島
東京　大塚進　廣島
神商　小川敬邦　廣島
京文　角野達堂　福井
京法　柏木啓一　福島
東法　加藤政一　廣島
京法　加納利忠　福井

東京	文	河村橘雄	山口
東京	法	川野敏夫	岡山
東京	法	河本重藏	廣島
東京	法	菅俊夫	愛媛
東京	經	菊池武雄	福島
東京	法	木村三郎	廣島
東京	經	北村秀雄	大阪
東京	文	佐伯保	廣島
東京	法	佐久間茂	廣島
東京	經	佐々木邦彦	廣島
東京	法	佐田健一	山口
東京	法	佐野勤	廣島
東京	經	島原健一	大阪

東京	文	妹尾健	廣島
東京	經	高井彌	靜岡
東京	經	高垣忠雄	廣島
東京	法	高橋英明	廣島
東京	經	高山昇	山口
東京	文	竹田平	山口
神奈川	商	建林正喜	山口
東京	法	寺光忠	廣島
東京	法	中村敏	德島
東京	法	中山清二	兵庫
東京	經	永井治郎	廣島
東京	法	灘井巖	廣島
東京	經	西原眞良	廣島

東京	法	西村勝矣	山口
神奈川	商	引地富男	廣島
京都	文	久富貢	福岡
東京	文	平田忠敏	廣島
神奈川	商	廣實正	廣島
神奈川	商	深田毅	福島
東京	經	藤田正夫	廣島
京都	法	船越健二	京都
京都	文	三谷久男	三重
京都	文	水梨彌久	福島
神奈川	商	三戸肇	兵庫
京都	文	向井寬	廣島
廣島	文理	本崎淹己	廣島

東京	經	森脇幸次	廣島
東京	經	守谷恒美	廣島
東京	法	八木鐵夫	愛媛
東京	文	柳川眞一	兵庫
東京	法	山田秀雄	東京
東京	法	山地秀夫	廣島
京都	經	山邊諭吉	奈良
京都	文	山本義明	香川
京都	文	湯川龍造	廣島
京都	文	横山文三	廣島
神奈川	商	吉木一夫	山口
京都	法	李永植	朝鮮
京都	法	脇本定巳	廣島

東文 渡邊哲夫 宮城

文科乙類

京経 青森和雄 廣島
九法文 秋本敏夫 山口
東文 飯田秀世 福岡
京法 伊藤一郎 大阪
神商 井上悌次 香川
京経 大下直次郎 廣島
京法 大谷志氣夫 德島
京経 岡崎俊夫 廣島
東法 吉川鼎 廣島
京経 倉本剛三 廣島

京経 國近貞男 廣島
東文 藏田藏 福岡
京法 黒河衛 廣島
京法 黒田豊次 廣島
京法 才木正巳 廣島
京経 兒玉士清 廣島
東法 酒井節司 廣島
京法 坂田正五 廣島
京法 篠原憲一 德島
東法 關重夫 香川

京経 高屋浩之助 京都
京経 立川竹次 廣島
東経 鶴見達三 長野
京経 野口英一 鳥取
京文 羽白幸雄 廣島
東法 廣中英太郎 山口
京法 日浦石雄 大分
京法 福本克巳 廣島
東文 富士川英郎 廣島

理科甲類

京工 有本欣二 和歌山
東農 伊東弘 山口

東法 寶神嗣雄 廣島
京法 正木又男 廣島
東法 松山軍一 廣島
京文 三登義雄 廣島
山形桂太郎 福井
東法 和栗博 岡山
東法 小田邦美 廣島
京経 寺尾一幹 廣島

東工業 井上昇 廣島
大川富雄 大阪

東	醫	小田廣美	廣島
東	工	奥田周策	廣島
京	醫	折田良隆	廣島
廣	文理	木下敏之	廣島
東	農	金東燮	朝鮮
東	農	熊野勇喜雄	和歌山
東	工	黒瀬行義	廣島
京	理	島田拓示	廣島
京	經	杉一誠	愛媛
九	農	高田雄之	廣島
		田中屋久吉	山口
東	工業	田部辰	廣島
東	農	谷原一義	廣島

京	農	玉井英雄	愛媛
		津田晃	兵庫
		津田昇兵衛	奈良
東	農	手島志郎	廣島
長	醫	德永等	廣島
		中川哲三	廣島
京	工	檜村邦雄	廣島
京	工	西谷民雄	廣島
		西村文造	廣島
東	農	野澤正雄	石川
長	醫	濱口正雄	廣島
東	醫	林俊吉	愛媛
京	醫	原積	神奈川

東	工	廣段積	廣島
京	工	福田正雄	廣島
一		藤井正房	山口
廣	文理	前川力	兵庫
長	醫	前田實	廣島

理科乙類

		相澤活世	埼玉
京	理	青木棟夫	三重
岡	醫	赤松金四郎	廣島
		秋光健一	廣島
京	醫	稲本晃	和歌山
京	理	内田熙	岡山

東	農	正木拾巳	兵庫
京	理	矢野義雄	京都
京	工	行友誠	廣島
九	工	渡邊襄	福島
東	醫	江藤忠夫	廣島
		大谷桃太郎	廣島
東	醫	大村良造	鳥取
岡	醫	岡部政之	廣島
		片山楠雄	廣島
東	理	梶山正登	廣島

九醫 城戸義人 福岡
醫 栗田有三 兵庫
岡醫 小泉三郎 廣島
千醫 兒玉健男 山口
京醫 佐々木六朗 廣島
東醫 末岡一男 山口
九農 惣津律士 岡山
岡醫 竹内榮次郎 愛媛
醫 田中哲之助 鳥取
朝鮮 田采基
岡醫 中村熊三 岡山
京醫 名迫行弘 和歌山
名和田豊 山口

京醫 西原敏男 廣島
東醫 十郎 三重
東北醫 日比定雄 岐阜
東醫 平本憲雄 廣島
東醫 藤岡定 廣島
岡醫 松森哲夫 廣島
愛醫 丸山賴人 廣島
東醫 宗藤哲 廣島
京醫 盛關健一 德島
岡醫 森正久 廣島
京農 森田修二 滋賀
京醫 藪内正勝 香川
長醫 山木戸貞道 廣島

九醫 渡邊琢一 愛媛

昭和五年三月十日卒業（第四回）

文科甲類

九法文 池田新作 岐阜
京法 池田業男 山形
東法 井出武忠 廣島
東經 井東正一 廣島
東經 井上數夫 大分
東經 江崎猛 愛知
東文 榎並敏春 廣島
神商 煙石隼人 廣島

有本正男 和歌山
京經 岡田敏雄 香川
京文 岡田壽之 廣島
越智岩夫 愛媛
東北法文 大川信雄 東京
東法 大澤隆清 兵庫
法 太田屹 岡山
文 大谷秀水 福岡
東法 加島淳 廣島
京文 片桐勝 廣島

岡醫 和田直 京都

東京 法 加藤整吾 廣島
東京 経 神下勝 香川
東京 文 神野止戈雄 愛媛
東京 法 窪田智 鹿兒島
東京 文 栗山醇三 奈良
東京 文 小寺政太郎 京都
東京 法 齋藤陽 京都
東京 法 齋藤榮三 大阪
東京 法 佐久間光三 廣島
東京 文 菅好雄 廣島
東京 文 惣野影 廣島
東京 法 高橋靖彦 廣島

京 法 武居政夫 長野
京 文 田坂實 廣島
東 法 田原貞實 岡山
東 文 玉置道夫 鹿兒島
東 文 田村清 廣島
東 法 土屋忠一 岡山
京 法 鄭四燮 朝鮮
東 文 寺川幸男 廣島
京 法 寺原秀正 北海道
岐阜 所武雄
廣 文理 戸田茂喜 廣島
東 文 中川清 山口
佐賀 中島隆次

東 文 中原治 廣島
東 法 難波正 岡山
東 文 南相塾 朝鮮
東 文 西亀元貞 廣島
東 法 原田正行 廣島
東 法 平地寛次 廣島
東 文 藤井達之 廣島
東 文 馬淵茂 福岡
東 文 滿井達 千葉
東 法 水鳥勉 兵庫
廣 文理 水野幾雄 廣島
京 文 水野秀夫 香川
東 法 三野重樹 福岡

東 法 宮川知良 廣島
東 法 宮地勉 廣島
京 文 宮原治之 廣島
東 法 村合正夫 岡山
京 経 村上一三 廣島
京 法 村上仁人 廣島
東 経 安信良二 廣島
東 文 柳正實 福岡
東 文 山崎喜好 廣島
東 法 山田正隆 福井
東 法 山本實雄 廣島
京 文 遊龜山英隆 廣島
東 法 横山信之 廣島

文科乙類

東法	吉倉健治	山口	
東文	相澤孝友	埼玉	
東法	足利義包	岡山	
東法	荒木正保	東京	
九法文	伊藤譲爾	廣島	
東法	川上房吉	福井	
東文	木本欽吾	廣島	
東文	久保隆美	香川	
東法	倉本明	廣島	
神商	古武彌彦	岡山	
近藤忠		大分	

東文	佐々木利雄	廣島	
東文	重野英夫	山口	
東経	柴村万徳	廣島	
東経	下村斉	廣島	
東法	鈴木信次郎	廣島	
京経	高橋渉	廣島	
京法	瀧口参男	千葉	
東法	瀧野好暁	廣島	
京法	立花俊雄	北海道	
東文	田中保隆	山口	

京法	千種虎夫	高知	
京法	中村清次郎	大阪	
東経	中山英一	滋賀	
東法	長戸寛美	東京	
京経	平瀬敏夫	廣島	
東法	藤井英麿	廣島	
京文	藤谷賜	愛知	
神商	松江仁壽	福島	
東文	水野忠敏	香川	

理科甲類

東工	赤松民也	廣島	
九工	荒木義彦	廣島	

九法文	三宅善三	大阪	
東経	三宅保之	廣島	
京法	宮宗丈夫	廣島	
東法	森俊二	愛媛	
東法	安田巖	廣島	
東経	山根泰二	廣島	
東文	吉村三次	廣島	
東文	妹尾泰然	廣島	
京工	石田二郎	愛媛	
京工	伊藤英一	東京	

東 工 岩宮登 廣島
京 農 大澤喜勇 愛知
東京 工 小原誠 東京
東 工 勝田敏治 廣島
京 農 金東煜 朝鮮
京 理 小池富男 廣島
京 工 金野逸郎 宮城
東京 工 佐伯精之 廣島
東 工 篠原敏夫 東京
京 工 志茂山貞二 京都
九 工 杉江重雄 大阪
東 工 數納勳郎 廣島

京 工 竹中英三郎 和歌山
京 経 伊達丞夫 廣島
長 醫 伊達德美 廣島
東 工 玉木福宜 廣島
京 工 塚本成之 大阪
京 工 西川政一 大阪
京 工 野間元誠次 廣島
東京 工 廣田春一 廣島
九 工 福井經彦 廣島
東 農 南方四郎 和歌山
京 松本彊 廣島
京 理 三宅修三 廣島

理科乙類

京 工 八木貞之助 京都
九 醫 山縣泰 山口
京 農 湯川半三郎 京都

京 醫 青木久司 廣島
千 醫 蘆原貞男 廣島
京 醫 池田接治 廣島
千 醫 今井岸眞 廣島
京 醫 植木保生 廣島
京 醫 大槻俊雄 愛媛
千 醫 久賀冬鯉 廣島

京 醫 柴田敏夫 山口
岡 醫 高橋勳 廣島
九 醫 土屋薫 廣島
京 醫 新本勇夫 廣島
京 醫 西垣又四郎 京都
京 醫 荻島茂 茨城
京 醫 原良太郎 廣島
京 醫 福永融 廣島

吉井隆 熊本
李明熙 朝鮮

東　醫　藤卷直意　新潟
東北醫　前川重和　和歌山
岡　醫　前田哲夫　岡山
　　桝田忠雄　大阪
　　松田鎭雄　廣島
　　湊　正男　秋田
岡　醫　宮地重樹　廣島
東　醫　宮本明道　廣島
九　醫　本永正樹　廣島
京　理　吉田清史　京都

第八　關係法規

一　高等學校令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十九號

第一條　高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス

第二條　高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス

第三條　高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス

第四條　私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財產ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財產ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條　公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條　高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條　高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス

專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條　高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタルモノ又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條　高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレル者トス

第十三條　高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以內尋常科三百二十人以內トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以內トス

第十四條　高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以內トス

第十五條　高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條　高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タ

ルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校敎員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條　高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、敎科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條　公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條　文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閱ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條　本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ內第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

二　高等學校規程（抄）

（大正八年三月二十九日文部會令第八號
昭和四年六月廿四日文部會令第二十二號改正）

第一章　學科課程及教科書

第二節　高等科

第四條　高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、鑛物及地質、心理、論理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條　修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奬スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル

事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條　國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智德ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條　外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智德ノ增進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條　歷史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歷史ハ國史、東洋歷史及西洋歷史ヲ授クヘシ

第九條　地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ智識ヲ授クヘシ

第十條　哲學概說ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

哲學概說ハ思想界ニ關スル智識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十一條　心理及論理ハ心意ニ關スル智識ヲ得シメ思考ヲ鍛錬セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條　數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條　自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條　物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條　植物及動物、鑛物及地質ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル智識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

鑛物及地質ハ鑛物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル智識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條　法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條　圖畫ハ自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ錬リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條　體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尚フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道、柔道及弓道ヲ加フルコトヲ得

第十九條　文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目 ＼ 學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一

學科目 ＼ 學年	第一學年	第二學年	第三學年
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學		三	三
體操	三	三	三
計	二九(三三)	二九(三三)	二八(三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一二	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三一(三四)	三一(三四)	三〇(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條　理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四(一)

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
物理			三 講義 三 實驗 二五
化學			
植物及動物	二		
鑛物及地質	二		
心理			二 講義 二 實驗 二四
法制及經濟	二		
圖畫	二	二	(二)
體操	三	三	三
計	二八(三二)	二八(三二)	二八(三二)

第三學年ノ數學〔二〕及圖畫〔二〕ト第三學年ノ植物及動物〔講義二實驗二〕トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於ケル生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム

此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學年 學科目	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三〇 (三三)	三一 (三四)	三一 (三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節　專攻科

第二十一條　專攻科ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ

國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、鑛物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節　教授上ノ注意

第二十二條　高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ趣旨ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節　教科書

第二十三條　高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章　學年、教授日數及式日

第二十四條　學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテトス爲スコトヲ得

第二十五條　教授日數ハ尋常科ニ在リテハ毎學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ毎學年二百日以上、專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合ニ於テハ此

ノ限リニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章　編制

第二十八條　尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條　公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ但シ兼任教員ハ教員數ノ半數ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條　公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道、柔道又ハ弓道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章　設備

第三十一條　高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條　校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條　校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條　校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條　高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

一　學則、日課表及教科用圖書配當表

二　職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三　生徒學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類

四　試驗ノ問題、答案及成績表

五　資產原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章　入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條　生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以內トス

第三十九條　當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條　他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ檢定ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

第四十一條　尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條　當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ

第四十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一　他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

二　高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

三　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

四　文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五　文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ア
リト指定シタル者

前項ノ資格試驗ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條　當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ
入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト中學校第四學年修
了ノ程度ニ依リ行フ試驗ノ成績トヲ併セ考査シテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ試驗ハ之
ヲ行ハサルコトヲ得

前項ノ考査ノ外必要アリト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考査ヲ行フコトヲ得

第四十五條　高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ身體檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者
ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ
高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限リニ在ラス

第四十六條　高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有
シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條　高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以內ニ於テ高等
學校ニ入學ヲ志願シタル者ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十八條　高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學
校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條　高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準
シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條　高等學校尋常科各學年ノ課程又ハ全學科ノ修了ヲ認ムルニハ平素ノ學業成
績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

高等學校高等科各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試
驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シ
テハ平素ノ學業成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試驗ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條　學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條　學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書、專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書、尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條　學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　引續キ一年以上缺席シタル者

四　正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者

五　出席常ナラサル者

第五十五條　生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條　學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第八章　雜則

第五十八條　高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一　學年、學期及休業日ニ關スル事項

二　學科課程、教授時數ニ關スル事項

三　課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四　生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五　授業料、入學料等ニ關スル事項

第五十九條　私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス

高等中學校規程、明治四十一年文部省令第九號、高等學校大學豫科入學者無試驗檢定

規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ハ之ヲ廢止ス

附　則　（昭和二年十一月文部省令第二十八號）

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條第二項及第四十四條ノ規程改正ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參　照）

明治四十一年文部省令第九號ハ高等學校大學豫科入學者ニ關スル件ナリ

三　文部省直轄諸學校官制（抄）

（明治二十六年八月二十五日勅令第八十六號／昭和三年十月二十九日勅令第二百五十六號改正）

第一條　文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ（大正十二年十二月十日勅令第五百一號改正）

廣島高等學校

（他校ハ略ス）

第六條　文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

生徒主事

助教授

書記

生徒主事補

前項職員ノ外文部省直轄諸學校職員定員令ノ定ムル所ニ依リ助手ヲ置クコトヲ得

第七條　校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條　教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條　文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事ハ奏任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事ハ當該學校ノ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒主事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第十條ノ二　文部省直轄諸學校定員令ニ於テ生徒主事補ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事補ハ判任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事補ハ當該學校ノ判任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

生徒主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク

第十條ノ三　助手ハ判任トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス

第十七條　專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條　文部大臣ハ公務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

四　文部省直轄諸學校職員定員令（抄）

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

	校長	教授	生徒主事	助教授	助手	書記	生徒主事補
廣島高等學校	一人	三十人	一人	四人	一人	六人	一人

（明治三十五年三月二十八日勅令第九十九號、大正十二年十二月十日勅令第五百二號改正、大正十三年四月二十八日勅令第九十八號改正、大正十四年四月二十五日勅令第百三號改正、大正十五年七月五日勅令第二百四十九號改正、昭和二年十二月二十八日勅令第三百六十六號改正、昭和三年十月二十九日勅令第二百五十七號改正）

五　陸軍現役將校學校配屬令（大正十四年四月十三日勅令第百三十五號、昭和四年五月勅令第百三十四號改正）

第一條　官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、專門學校、高等師範學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第二條　私立ノ中學校、實業學校、高等學校、大學豫科若ハ專門學校又ハ兵役法施行令第百條第三號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタル私立學校ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲當該學校ノ申請ニ因リ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ將校ヲ配屬スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

大學々部ノ申出アルトキハ前二項ノ規定ニ準シテ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコト

ヲ得

第三條　陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依ル將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得

第四條　陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閲セシムルコトヲ得

第五條　官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學校ニハ第一條ノ規定ニ拘ラス將校ヲ配屬セサルコトヲ得

尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ實業學校以外ノ實業學校、修業年限二年未滿ノ實業補習學校教員養成所及夜間ニ於テ教練ヲ課スル學校ニ付テハ第一條及第二條ノ規定ヲ適用セス

第六條　配屬將校傷痍疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ現役將校ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條又ハ第二條ニ規定スル學校ニシテ大正十四年二月一日以後ニ於テ設立シタルモノニハ當分ノ內將校ヲ配屬セサルコトヲ得

六　高等學校高等科入學資格試驗規程

（大正八年三月二十九日文部省令第九號）
（大正十五年二月二日文部省令第七號改正）

第一條　高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條　高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條　試驗ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條　專門學校入學者檢定規定第七條第二項又ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有スル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除スル專門學校入學者檢定規定第八條ニ依リ試驗ヲ免除セラルヽ者ニ付亦同シ

第五條　中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第六條　高等學校高等科入學資格試驗ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第七條　中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手數料ヲ徵收スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

七　專門學校入學者檢定規程

（大正十三年十月十一日文部省令第二十二號）
（大正十四年九月二日文部省令第三十六號改正）

第一條　專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ本令ニ依リ學力ノ檢定ヲ受クヘシ

第二條　檢定ヲ分チテ試驗檢定及無試驗檢定トス

第三條　試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行フ
試驗檢定ノ出願期限、試驗執行ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

第四條　試驗檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサル事ヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條　試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ受驗願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ受驗地ノ地方廳ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一　履歷書（第二號書式）
二　戶籍抄本
三　寫眞（手札形トシ出願前三月以內ニ脫帽ニテ撮影シタルモノニシテ裏面ニ撮影年月日、本籍氏名ヲ記載スヘシ）
四　第七條第二項ニ依ル證明書ノ寫又ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ノ寫

五　第八條ノ資格ヲ證明スル書面

第六條　試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ金五圓ヲ納付スヘシ

第七條　試驗檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書（第三號書式）ヲ交付ス
試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セサルモ受驗學科目中合格點ヲ得タルモノアルトキハ其ノ證明書（第四號書式）ヲ交付ス
前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ試驗檢定ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス

前項ノ規定ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有スル者ニ付之ヲ準用ス

第八條　試驗檢定ノ學科目中一科目又ハ數科目ニ就キ中學校若ハ修業年限四年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト認ムル者ニ對シテハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス

第九條　合格證書ヲ有スル者其ノ氏名本籍ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ合格證書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止シ尚期間ヲ定メテ試驗ヲ受ケシメサルコトアルヘシ

大正七年文部省令第三號高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件第八條ニ依リ試驗ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止セラレタル期間本令ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト後日發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條　無試驗檢定ハ當該專門學校ニ於テ入學ノ際之ヲ行フ

無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ハ文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者ニ限ル

前項ノ指定ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條　本令ニ依リ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ專門學校入學者試驗檢定施行ニ關スル手續ヲ開始シタルモノニ在リテハ當該試驗檢定ニ關シ仍從前ノ規定ニ依ル